

明治二十二年自十月  
至十二月

北海道廳布令全書

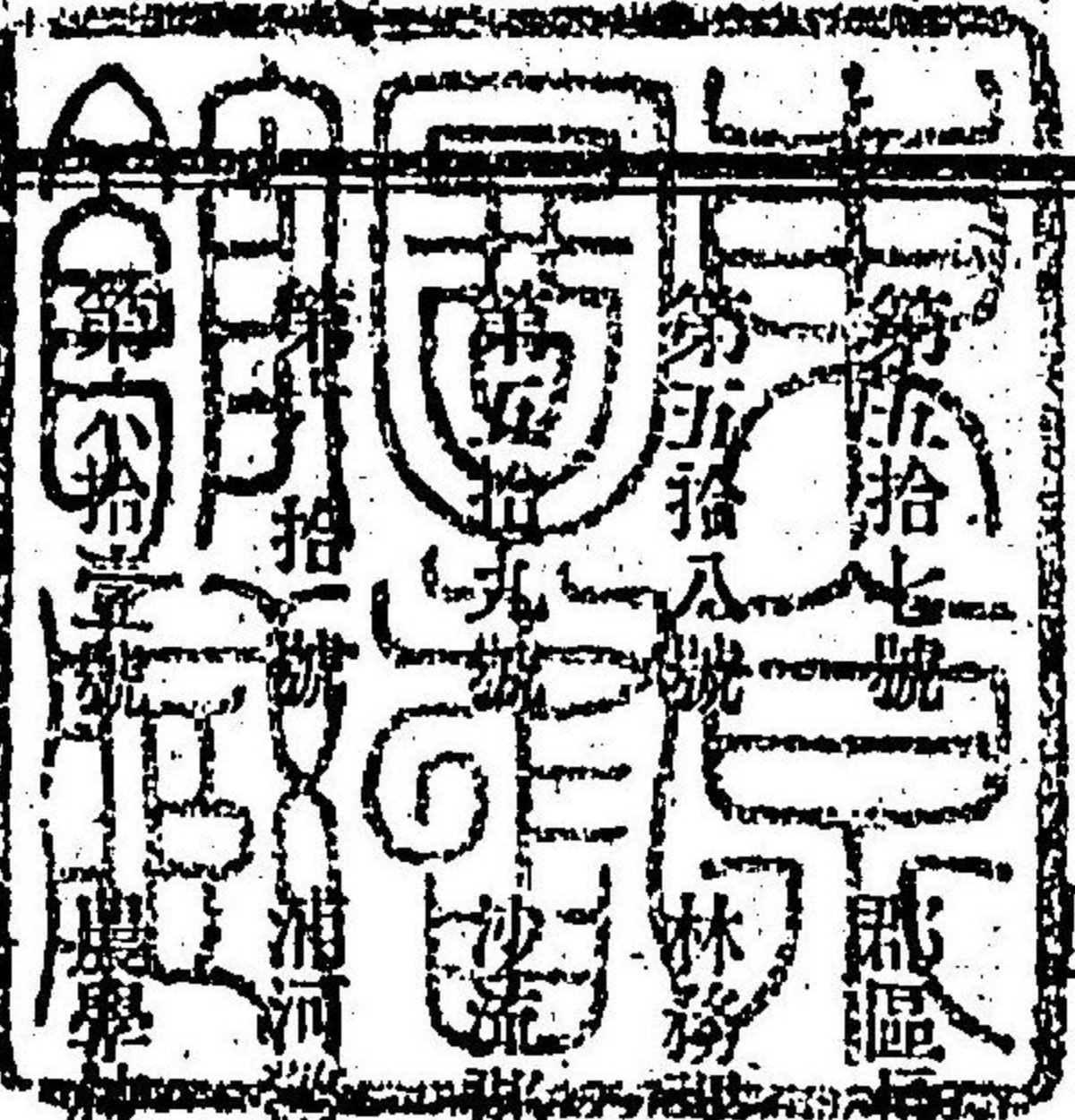
北海道廳第一部  
記錄課編輯

3E-72

C2  
113  
11-08  
特  
218  
122358  
23

明治二十二年自十月至十二月北海道廳布令全書目次

聽令



第五拾七號

郡區長分任條件第貳拾壹項削除

一丁

第五拾八號

林務課員派出所名稱位置管轄區域

全丁

第五拾九號

沙流郡佐瑠太外十七ヶ村戸長役場移轉

三丁

第六拾號

浦河警察署佐瑠太分署移轉

全丁

第六拾壹號

農學校卒業生學士號

四丁

第六拾貳號

自家用料酒類製造者心得書式

全丁

第六拾參號

酒造營業人心得書

六丁

第六拾四號

格魯兒酸加溜謨ノ賣買授受届出方

七十九丁

第六拾五號

街路取締規則

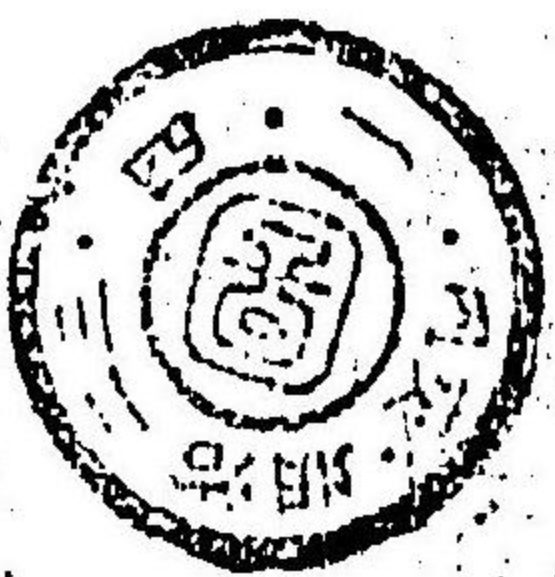
八十丁

第六拾六號

北海道違警罪目第一條ノ追加

九十四丁

目次



第六拾七號 宿屋取締規則

九十四丁

第六拾八號 全則中當分施行セサル町村及條項

百四丁

第六拾九號 函館新水道取締規則

百五丁

第七拾號 北海道違警罪目第一條～追加

百六丁

第七拾壹號 乘合馬車取締規則

百七丁

第七拾貳號 營業人力車取締規則

百十九丁

第七拾參號 北海道新設市街地貸下手續

百三十一丁

訓令

第四拾壹號 巡查看守轉任ノ場合滿年賜金支給方

百三十四丁

第四拾貳號 十九年己第四號達及廿年訓令第拾參號(附下表)廢止

全丁

第四拾參號 郡區役所印紙類會計官吏任命方

百三十五丁

第四拾四號 官船乘込出張ノ戸長其他ノ者食卓料支給額

全丁

第四拾五號 郡區長分任條件報告例改定

百三十六丁

第四拾六號 物品出納順序

百六十七丁

第四拾七號 國稅處分濟報告雛形中削除

百八十一丁

第四拾八號 十八年函館縣丙第三拾號達(附下表)廢止

全丁

第四拾九號 諸稅檢查員携帶印章

全丁

第五拾號 租稅檢查例則中改正

百八十二丁

第五拾壹號 種痘費ヲ町村費ニテ支辨方

百八十三丁

第五拾貳號 郡區長分任條件報告例表式第貳號ヲ定ム

百八十四丁

第五拾參號 格魯兒酸加溜謨賣納届出方

百八十七丁

第五拾四號 稅務監查規程

全丁

第五拾五號 空知監獄署各課分掌中第六課ノ項目削除

百九十丁

第五拾六號	物品出納順序細則	百九十丁
第五拾七號	青森縣下ニテ取渡馬匹馬券下付	百九十八丁
第五拾八號	貸渡官舎宿代徴收額郡區長ニ定メシム	二百丁
訓令 號外	札幌農學校學費取扱細則	二百一丁
訓令 號外	海軍軍人軍屬ノ犯罪者送致方	二百四丁
訓令 號外	內務報告例年報第十五表更正	二百六丁
訓令 號外	二十三年前半期戸數割賦課金額	二百八丁
告 示		
第四拾四號	第三期函館重罪裁判所開廳	二百十丁
第四拾五號	月形市來知岩見澤奈井江空知太間新道里程	全丁
第四拾六號	第三期札幌重罪裁判所閉廳	全丁

第四拾七號	第三期函館重罪裁判所閉廳	二百十二丁
第四拾八號	第四期札幌重罪裁判所開廳	全丁
第四拾九號	空知太市街見込地貸下手續	全丁
第五拾號	諸稅監查員携帶印章	二百十二丁
第五拾壹號	川村古平間新道里程	二百十三丁
第五拾貳號	陸軍各兵科現役士官候補生幼年學校生徒志願者願書差 出方	全丁
第五拾參號	第四期函館重罪裁判所開廳	二百十四丁
第五拾四號	第四期札幌重罪裁判所閉廳	全丁
第五拾五號	札幌及七重兩蚕種検査所閉鎖	全丁
第五拾六號	第四期函館重罪裁判所閉廳	全丁
第五拾七號	空知太忠別太間新道里程	二百十五丁

第五拾八號 對雁岩見澤市來知間里程

二百十五丁

第五拾九號 產婆講習會規則中追加

全丁

第六拾號 藥用阿片賣買免許者死亡

二百十六丁

告諭

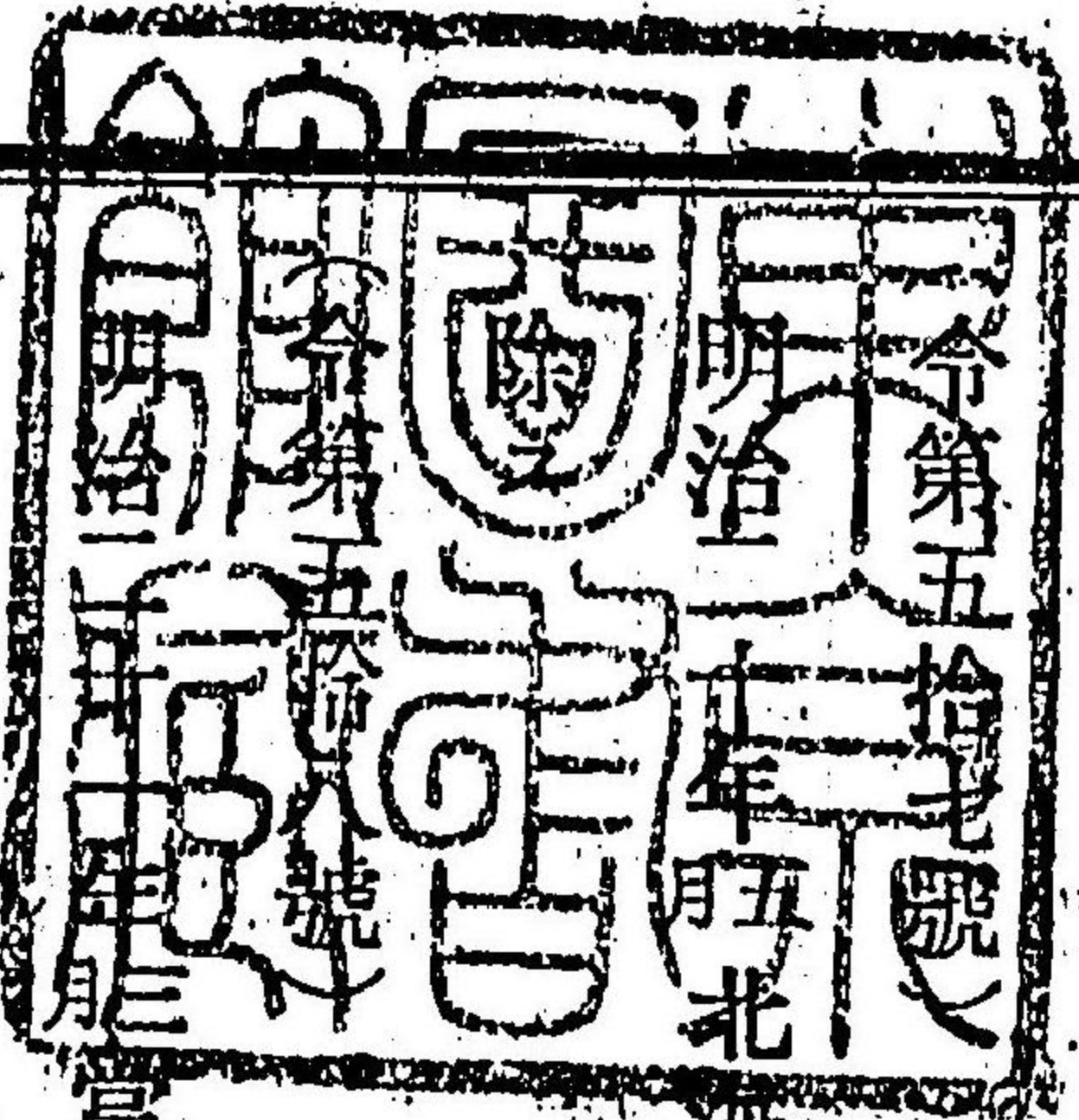
第壹號 露國樺太島へ出稼營業者出願方

二百十七丁

明治廿二年自十月至十二月北海道廳布令全書

廳令

十月二日



當廳令第拾七號當廳第二部林務課員派出所名稱位置

及管理區域左ノ通改正來ル十一月一日ヨリ施行ス

名	稱	位	置	管	理	區	域
北海道廳第二部林務課	札幌區	札幌區	後志國小樽高島ノ二郡	石狩國札幌郡	膽振國千歲郡		
空知	派出所	空知郡岩見澤	石狩國空知夕張樺戸雨竜上川ノ五郡及石狩郡ノ内篠津川以東				
石狩	派出所	石狩郡石狩	石狩國厚田濱益ノ二郡及石狩郡ノ内篠津川以西				

廳令

一

厚岸	釧路	浦河	勇拂	有珠	茅部	龜田	松前	上國	柳崎	久遠	壽都	岩内	余市
厚岸郡厚岸	釧路郡釧路	浦河郡浦河	勇拂郡苦小	有珠郡紋鼈	茅部郡森	龜田郡龜田	松前郡福山	上國郡上ノ國	柳山郡柳崎	久遠郡久遠	壽都郡壽都	岩内郡岩内	余市郡余市
釧路國厚岸郡	十勝國一圓釧路國白糠阿寒川上足寄釧路ノ五郡及日高國幌泉郡ノ内猿留村	日高國新冠靜内三石浦河樺似ノ五郡及幌泉郡ノ内釧路派出所管理ニ屬セザル部分	膽振國幌別白老勇拂ノ三郡 日高國沙流郡	膽振國有珠室蘭ノ二郡及此田郡ノ内壽都派出所管理ニ屬セザル部分	渡島國茅部郡膽振國山越郡	渡島國龜田上磯ノ二郡	渡島國松前郡	渡島國檜山郡ノ内豊部内川以南	渡島國耐志郡及檜山郡ノ内豊部内川以北	後志國瀬棚太櫓久遠奥尻ノ四郡	後志國磯谷歌樂壽都島牧ノ四郡及膽振國此田郡ノ内後別川朱太川ニ面スル部分	後志國岩内古宇ノ二郡	後志國忍路余市古平美園積丹ノ五郡

根室	紗那	網走	宗谷	利尻	留萌	増毛
根室郡根室	紗那郡紗那	網走郡網走	宗谷郡稚内	利尻郡鬼脇	留萌郡鬼鹿	増毛郡増毛
根室國一圓千島國國後色丹ノ二郡	千島國擇捉振別紗那藥取得撫新知占守ノ七郡	北見國斜里網走常呂紋別ノ四郡	北見國枝幸宗谷ノ二郡	北見國利尻禮文ノ二郡	天壠國天壠中川上川苦前ノ四郡及留萌郡ノ内鬼鹿天登雁ノ二村	天壠國増毛郡留萌郡ノ内禮受留萌三泊ノ三村及苦前郡ノ内天賣燒尻ノ二村

(令第五拾九號) 十月廿四日

沙流郡佐瑠太外十七ヶ村戸長役場ハ本月三十一日限同郡門別村ニ移

(令第六拾號) 十月廿四日

浦河警察署佐瑠太分署ヲ本月卅一日限リ門別村ニ移シ浦河警察署門

別分署ト改稱ス

(令第六拾壹號) 十月三十一日

札幌農學校ニ於テ農學科及工學科ヲ卒業シタルモノハ其學科ニ從ヒ農學士又ハ工學士ト稱スルコトヲ得

(令第六拾貳號) 十一月九日

明治十九年八月大藏省令第貳拾七號自家用料酒類製造者心得第一項第三項書式左ノ通相定ム

但明治十九年十月函館支廳甲第拾號布達ハ廢ス

自家用料酒製造御届

國郡區町村番地

何營業名

(引續製造ノモノハ免許鑑札番號ヲ記載スヘシ)

何

某

一濁酒 何程

一燒酎 何程

一味淋 何程

(白酒銘酒ノ如キモノ之ニ準ス)

合製造石高 何程

右ハ何年度自家用料ノ爲メ前記ノ酒類製造仕候間(免許鑑札御下渡被下度)(御免許相成度)尤今後造酒種目ノ變換及製造高ヲ増減候節ハ其時々御届可仕此段(鑑札相添)御届仕候也

年月日 右

何

某

郡區長宛

(戸長與書)

標札書式

免許鑑札番號 自家用料 <small>濁酒</small> 何酒製造 國郡區町村番地 何 某
---

豎巾曲尺二尺

横巾全八寸

(令第六拾參號) 十一月十二日

酒造營業人心得書左ノ通相定ム

但明治十七年八月八札幌縣甲第四拾五號布達同年四月四根室縣甲第貳拾貳號布達明治十八年七月七函館縣甲第參拾五號布達ヲ廢ス

酒造營業人心得書

第壹條 酒造營業ヲ爲サントスルモノハ酒造稅則ヲ遵守シ左ノ條項ニ從フヘシ

第貳條 新ニ營業ヲ爲サントスルモノハ第壹號書式ニ倣ヒ願出許可ヲ受クヘシ

第參條 酒造場ハ倉庫又ハ建物ノ棟數ト製酒ノ種類トヲ問ハス都テ其一區域ヲ以テ一ヶ所トスヘシ

但一區域外ノ倉庫建物ト雖モ検査濟ノ酒類又ハ酒造用諸器械ヲ藏置スルニ止ルモノハ酒造場ノ附屬トスルコトヲ得ヘシ

第四條 免許鑑札ハ一期有効ノモノトス故ニ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ最初授與シタル鑑札ヲ添第貳號書式ニ倣ヒ毎年十月一



日迄ニ願出ツ可シ右期日ヲ過クルトキハ第二條ニ準據スヘシ

第五條 二人以上資力ヲ合シ組合營業ヲ爲サントスルモノハ其組合員ノ連名ヲ以テ願出會社ヲ設ケ營業ヲ爲サントスルモノハ頭取ノ名ヲ以テ願出ツヘシ

第六條 免許鑑札賣買讓與ノ節甲乙兩管廳ニ交渉スルトキハ双方連署ノ書面へ免許鑑札ヲ添へ甲管廳賣渡讓渡人ノ酒造場所在ノ管廳ニ申出添翰ヲ受ケ

鑑札書換方乙管廳買受讓受人ノ酒造場所在ノ管廳ニ願出ツヘシ

但酒造場轉換鑑札書換ヲ請フトキ甲乙兩管廳ニ交渉スルトキハ本項ノ手續ニ從フヘシ

第七條 廢業ノ節ハ其旨届出免許鑑札ヲ返納スヘシ

第八條 營業免許ヲ受ケタルモノハ稅則第廿六條及第廿七條ニ據リ

一期造酒見込ノ種目石數造リ方法諸器械トモ第參號ヨリ第五號迄ノ書式ニ倣ヒ酒造場建物ノ位置坪數等ハ詳細ノ繪圖面ヲ製シ免許ノ後五日限り届出ツヘシ

第九條 前條届出ノ後増減又ハ變換アルトキハ其時々届出ツヘシ尤見込石高ノ増減ハ第六號書式ニ倣ヒ調製スヘシ

第十條 稅則第十八條造石稅免除ノ種類ト雖モ一期造酒見込ノ種目石數ハ免許後五日限り届出ヘシ

但造リ方法ハ免許願書ニ添へ差出シ變換ハ其時々届出ツヘシ

第十一條 第八條造酒ノ種目トハ清酒濁酒燒酎酒精再溜酒精白酒味淋酌酒ト其種目毎ニ掲記スヘシ

但酌酒中直シ酒保命酒桑酒養老酒菊酒紫蘇酒アラノ酒南蠻酒等

各其酒名アルモノハ分記スヘシ

第十二條 戸外ニ掲出スヘキ標札ハ左ノ雛形ニ倣ヒ酒造場一ヶ所毎ニ調製シ該期製造見込酒類ノ種目石數ヲ記載スヘシ其石數ヲ増減シ種目ヲ變換シタルトキハ其時々紙札ヲ貼付シ之ヲ更正スヘシ但製造石高悉皆検査濟ノ上ハ其石數ニ更正スヘシ

免許鑑札番號

第 號

清酒何石造

白酒何石造

北海道 郡町 番地

何 某

寸法 堅巾 曲尺 三尺 横巾 ハ 酒類ノ數ニヨリ 適宜 酢元用 酒類ハ 酢元用ノ三字ヲ冠ラシ 醪酒ハ 其酒名ヲ一々列記スヘシ

第十三條 醗膠仕込桶遣ヒノ順序及仕込桶遣ヒノ順號ハ第七號書式ニ倣ヒ著手以前届出ツヘシ尤變換アルトキハ其時々届出ツヘシ

但清酒外ノ酒類ト雖トモ本條ニ準據スヘシ

第十四條

酒桶甕類ハ新製修繕ヲ問ハス

他ヨリ借用ノ桶甕類ニテ容量ナキモノモ同シ

左ノ丈

量法及算則ニ據リ容量取調第八號書式ニ倣ヒ速ニ検査願出スヘシ 検査ノ上ハ桶ノ側面ヘ左ノ件々ヲ記入シ官ノ烙印ヲ捺スルモノトス

但甕類及胴張桶等ニシテ本項ニ準據シ難キモノハ便宜適實水ヲ量知ルノ類ニ取調フヘシ

酒造桶側面記入ノ件々

番號

口徑

何程

胴徑

何程

底徑

何程

深サ

何程

石數

何程

調査年月日

検査員官姓名

烙印

酒造桶丈量法

口徑 口頭ヨリ一寸下リタルケ所 胴徑 口底徑ノ中央 底徑 底板面ノケ所 孰レモ内測リニテ縦横⊕圖ノ如ク度リ此縦横徑ヲ和シ之ヲ二ニテ除シ以テ定ム深サハ其酒桶ノ前

後左右中心等孰レモ底面ヨリ口徑迄ノ間ヲ丈量シ之ヲ和シ五ニテ除シ以テ定ムヘシ

但尺度ハ孰レモ曲尺ヲ用ヒ分位ニ止メ厘以下切捨ツヘシ

算則

口徑ト胴徑ノ和ヲ自乘シテ甲トス

胴徑ト底徑ノ和ヲ自乘シテ乙トス

口徑ト底徑ノ和ヘ胴徑ヲ乘シ丙トス

甲乙ノ和ヨリ丙ヲ減シ殘數ニ深サ及〇、〇四〇三八四四 乘率ノ一位ヲ石位トシ 丈量尺度ハ分位ニ止メサ乘シ之ヲ二ニテ除シ其容量ヲ得ル

但石數ハ合位ニ止メ以下切捨ツヘシ

第十五條 桶甕類ノ番號ハ酒造場一ケ所毎ニ起號シ桶甕ノ數ニ應シ

テ其順次ヲ定ムヘシ尤其他ノ諸器械ハ番號ヲ付スルニ及ハスト雖  
モ官ノ烙印ヲ捺シ得ルモノハ之ニ烙印ヲ受クヘシ

但甕類ノ番號石數等ハ木札ニ書載シ之ヲ正面ニ付シ置クヘシ

第十六條 粕桶水桶米浸桶ノ類ニシテ全ク酒類ヲ容レサルモノハ丈  
量ニ及ハスト雖トモ番號ハ桶甕類ノ順號ヲ逐ヒ記載スヘシ

但酒造場内ニ於テ酒類ヲ容ル、桶甕類ハ都テ容量ノ検査ヲ受ク  
ヘシ

第十七條 桶甕類ハ調査簿甲乙二帳ヲ製シ甲帳ハ郡區役所ニ備ヘ乙  
帳ハ營業者ニ下付シ置キ増減ノ都度検査員ニ於テ之ヲ加除スルヲ  
以テ營業人ハ之ニ調印スヘシ

第十八條 調査濟ノ酒造用諸器械ヲ賣買讓與貸借又ハ返却スルトキ

桶甕類ハ其番號他ノ器械ハ其品目員數等ヲ記載シ双方連署ノ書面  
ヲ以テ其旨届出番號及帳簿等ノ訂正ヲ受ケタル後之レヲ授受スヘ  
シ

但解破スルモノハ其時々届ツヘシ尤造酒著手後ニシテ造石稅完  
納ノモノハ其旨ヲ記載スヘシ

第十九條 造酒<sup>搾</sup>溜<sup>リ</sup>器械解封又ハ封緘ヲ受ケタルトキハ第九號書式  
ノ請書ニ調印スヘシ

第二十條 封緘セシ器械ヲ使用又ハ洗滌修繕スルトキハ日數ヲ豫定  
シ其旨申出解封ヲ請フヘシ

第二十一條 器械封緘中賣買讓與貸與又ハ返却解破等ヲナストキハ

第十八條ノ手續ニ據リ届出解封ヲ請フヘシ

第二十二條 醱立並醱仕込又ハ蒸溜等當期最初ノ著手期日ハ前以テ

届出ツヘシ

第二十三條

酒醱燒酎ノ元粕味淋ノ元  
燒酎ノ類トモ

及醱ハ熟成ノ期日ヲ豫定シ第拾號

書式ニ倣ヒ前以テ申出検査ヲ受クヘシ

但検査以前ニ於テハ酒醱ヲ使用シ醱ヲ搾リ揚グル等ノ事アル可

カラス

第二十四條 醱ハ一ト仕舞毎ニ分界ヲ立テ搾リ揚ケ製酒ノ検査ヲ受

クヘシ若シ數仕舞ヲ合シテ搾ラントスルトキハ豫メ其旨申出検査

員ノ指示若クハ承認ヲ受クヘシ

第二十五條 酒類ハ製成ノ時々第十號書式ニ倣ヒ申出テ検査ヲ受ク

ヘシ尤検査員臨時出張ノ場合ニ於テ若シ申出ヲ怠リタルモノト視

認ルトキハ其事由ヲ告ケ直ニ検査スルモノトス

但濁酒及白酒等醱ノ儘造石高ヲ査定スルモノト雖トモ本項末段

ノ通検査スルモノトス

第二十六條 酒粕ハ製成酒検査ノ際共ニ検査ヲ受クヘシ

第二十七條 造石検査ヲ受クヘキ酒類ハ桶甕等口頭ヨリ壹寸ヲ減シ

側面記載ノ石數ヲ入レ置ヘシ若シ其石數ニ滿タサルモノハ現在ノ

入實ニ就キ左ノ方法ニ據リ査定スルモノトス

端桶石數算法

入實胴徑ヨリ以上ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ底徑ト假定ス此

徑ヲ定ムルニハ口徑ヨリ胴徑ヲ減シ空積ノ深サヲ乘シ二倍  
シ全深ニテ除シ之ヲ口徑ヨリ減シテ假定ノ底徑トス

假定ノ底徑ト口徑トノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ底徑ト口徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ空積ノ深サ及〇、〇四〇三八四四乘率ノ一位ヲ石位トシ丈量尺度ハ分

位ニ止メ尺位チ一位ヲ乘シ得ル數ヲ桶側面記載ノ石數ヨリ減シ現在ノトス以下準之

石數ヲ得ル入實胴徑ヨリ以下ニアルトキハ其容積面ノ直徑ヲ口徑

ト假定ス此口徑ヲ求ムルニハ入實胴徑ニアルモノハ其胴徑ヲ假定ノ口徑トシ入實胴徑ニ滿タサルモノハ胴徑ヨリ底徑ヲ減シ現在ノ深サヲ乘シ二倍シ全深

ニテ除シ之ニ底徑ヲ加ヘテ假定ノ口徑トス

假定ノ口徑ト底徑ノ和ヲ自乘シ甲トス

假定ノ口徑ト底徑トヲ相乘シ乙トス

右甲ヨリ乙ヲ減シ現在ノ深サ及〇、〇四〇三八四四ヲ乘シ現在ノ石數ヲ得ル

第二十八條 酒類ノ火入滓引ハ造石検査ノ後之ヲ爲スヘシ

但新酒ニ古酒ヲ混和シテ火入レヲ爲サントスルトキハ前以テ申出検査ヲ受クヘシ

第二十九條 検査ノ節ハ酒造ニ關スル建物及諸器械ハ勿論時宜ニヨリ其他ノ場所ト雖モ點檢スルコアルヘシ此場合ニ於テハ營業人若クハ代理人ニ於テ先導ヲナスヘシ

第三十條 検査員携帶ノ造石検査簿ハ醗膠製酒等検査ノ都度記入スルモノトス營業人ハ請印トシテ之レニ調印スヘシ

第三十一條 古酒並買入酒ヲ所持スルモノハ期節ノ初メニ於テ現在ノ石數検査ヲ受クヘシ

第三十二條 前項検査以後造酒期節中買入タル酒類ハ石數及買入先ノ住所氏名ヲ記載シ其都度届出ツヘシ

但本項買入ノ際ハ仕切書又ハ送り狀等取置キ検査ノ節参照ニ供スヘシ

第三十三條 検査済ニ係ル酒類及古酒買入酒等ハ検査員隨時出張現在ノ石數ヲ検査スルコトアルヘシ

第三十四條 不用ノ酒配ヲ同業者へ賣渡サントスルトキハ双方連署ノ書面ヲ以テ申出テ検査ヲ受クヘシ

第三十五條 一ヶ所以上免許ノ者甲ノ酒造場ニテ製造シタル酏醪ヲ乙ノ酒造場へ移サントスルトキハ其旨申出テ検査ヲ受ヘシ

第三十六條 營業上ノ都合ニヨリ未製成ノ酒類ヲ賣渡讓與セントスルトキハ其旨申出テ検査ヲ受ケ税則第二條ノ類別ニヨリ造石税ヲ納ムヘシ

但同業者ニ係ルトキハ双方連署ノ書面ヲ以テ届出テ検査ヲ受ケ其造石税ハ買受者ニ於テ納ムヘシ

第三十七條 造石税納期以前免許鑑札ヲ賣買讓與シ又ハ廢業スルモノハ検査済酒類ニ係ル造石税ハ其節之ヲ完納スヘシ

第三十八條 検査済ノ酒類並古酒買入酒等ヲ粕漉ニセントスルトキハ前以テ申出テ検査ヲ受ケ尙製成ノ上更ニ検査ヲ受クヘシ

但製成ノ上増石スルモノハ其造石税ヲ納ムヘシ

第三十九條 買入酒類ヲ變製セントスルトキハ其種目石數及ヒ變製方法等ヲ詳記シ前以テ申出検査済ノ後著手スヘシ尤變製ノ上ハ更ニ検査ヲ受ケ其石數ニ係ル造石税ヲ納ムヘシ

第四十條 税則第十六條非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ其實況ヲ証明

シ速ニ申出テ検査ヲ請フヘシ

第四十一條 前條検査ノ上其再製シ得ヘキモノハ第三十九條ノ手續ニヨリ申出ヘシ其再製シ得サルモノ及ヒ廢棄セントスルモノハ其旨ヲ詳記シタル書面ヲ差出スヘシ

但本項末段ノ酒類ヲ酢元等ニ販賣セントスルトキハ其所用ヲ明記シ買主連署ノ上届出ツヘシ

第四十二條 稅則第十八條造石稅免除ノ酒類ハ造石検査ヲ受クルニ及ハスト雖モ検査員隨時出張點檢スルコトアルヘシ

但一期中製造シタル種目石數ハ翌期十月五日限リ届出ツヘシ

第四十三條 明治十六年十月十二號布告第三項ニ據リ届出ツヘキ製酢ハ製成ノ上直ニ届出ツヘシ

但本條ノ製酢ハ勿論他ノ種類ヲ以テ製造シタル酢ト雖モ検査員隨時出張點檢スルコトアルヘシ

第四十四條 營業人ハ左ニ掲クル帳簿ヲ調製シ其時時遺漏ナク記入シ酒造検査ノ際參照ニ供スヘシ

但左記ノ外造酒一般ニ關スル諸帳簿ハ便宜調製スヘシ

第一 造酒米元帳

此帳簿ニハ蒸米麴米ニスヘキ白米ノ洗滌及杜氏雇人へ飯米等受渡ノ際ニ於テ其石數及年月日ヲ記入スルモノトス但第十一號書式ニ倣フヘシ

第二 仕込帳

此帳簿ニハ酒酛ハ蒸米麴米汲水醪仕込ハ酛ノ米水及添中留ノ蒸



米麴米汲水等仕込順號ヲ逐ヒ其石數及年月日ヲ記入スルモノト  
ス但第十二號書式ニ倣フヘシ

第三 蒸溜帳

此帳簿ニハ燒酎及酒精等蒸溜ノ際釜數及元粕ノ量目酒類ノ石數  
ヲ記入スルモノトス但第十三號書式ニ倣フヘシ

第四 酒粕目方帳

此帳簿ニハ每一回摺リ揚ケノ量目ヲ記載シ賣買ハ量目及年月日  
住所氏名トモ記入スルモノトス但第十四號書式ニ倣フヘシ

第五 酒藏出帳

此帳簿ニハ古酒買入酒及新酒等卸小賣ハ勿論自家用料共日々倉  
庫ヨリ出高及年月日ヲ記入スルモノトス但第十五號書式ニ倣フ

ヘシ

第六 酒賣上帳

此帳簿ニハ卸賣ハ其石數代金及年月日買入ノ住所氏名小賣ハ其  
石數代金ヲ日計シ記入スルモノトス尤貸賣ニ係ルモノハ口分ケ  
又ハ別帳ヲ製シ之ニ準シ記入スヘシ

第四十五條 酢元用酒類製造者ハ前項第二仕込帳ノ外酢造仕込帳ヲ  
調製スヘシ尤他ヨリ買入タル酒粕及他ノ種類ヲ以テ製造スルトキ  
ハ彼是混同セサル様各別ニ記載スヘシ

第四十六條 營業上代理者ヲ置クトキハ酒造ニ關スル一切ノ事ヲ熟  
知シタル者ヲ撰定シ委任狀寫ヲ添ヘ双方連署ノ書面ヲ以テ届出ツ  
ヘシ

但幼少其他事故アリテ後見人ヲ置クトキハ委任狀ヲ付與スルノ  
 限リニアラスト雖トモ後見人ニ事故アリテ代人ヲ置クトキハ後  
 見人ヨリ本項ニ據リ委任狀ヲ付與スヘシ尤先キニ酒造税ニ關シ  
 公賣處分ヲ受ケ税金官損ニ歸シタルモノハ代人ト爲スコトヲ得  
 ス

第四十七條 検査員ハ検査印章ヲ携帯スヘキニ付請求ニヨリテハ之  
 ヲ示スヘシ

第四十八條 酒酖ハ検査済ト否トヲ問ハス醪及清酒ハ検査未済ノモ  
 ノヘ左記ノ紙札ヲ貼付スヘシ

第一 酒酖ハ坪臺桶ニ移シタルトキ其坪臺桶ニ酖立ノ順號及月日  
 ヲ一個毎ニ記載スヘシ

第 號
何 月 何 日

第二 醪仕込ノ際枝桶ヲ使用スルトキハ添中留ニ拘ハラヌ其枝桶  
 ニハ甲號ノ通記載シ仕込済即チ口打セルモノハ乙號ノ通り記載  
 スヘシ

甲
第何號仕込
號

乙
第何號仕込
何月何日留
號

第三 清酒ハ一ト槽摺リ揚ケタル度毎ニ其摺リタル醪ノ仕込順號

ヲ記載スヘシ

清酒 第何號  
第何號 搾リ

第四 酢元用酒類製造者ニシテ其酒類ヲ以テ酢ヲ製造シタルトキ

ハ甲號ノ通記載シ酒粕其他ノ種類ヲ以テ酢ヲ製造シタルトキハ

乙號ノ通記載シ區別判然タラシムヘシ

甲 第何號何月何日留

酒類元製酢

號

乙 第何號何月何日造

酒粕其  
他種類  
元製酢

號

第四十九條 検査済ノ酒甑數個ヲ一ト桶へ合併シ其幾分ヲ漸次使用

スルモノハ其殘石數ヲ判然ナラシメン爲メ甑何個何分何厘ト記載

シタル紙札ヲ桶側面へ貼付スヘシ

書式

第一號 △印ハ朱書

新規酒造營業御免許願

國郡區町村番地

酒造場

一何酒何程製造見込 △(酢元用酒類製造者ハ記載ニ及ハス)

右酒造場ニ於テ明治何年度酒造營業仕度候間免許鑑札御下渡被下度

同業者連署此段相願候也

國郡區町村番地(寄留)

(原籍何々)

年月日

願人 何

某印

國郡區町村番地

酒造營業人

何

某印

以下同業者連署前ニ倣フ

郡區長宛

△一奥書ヲ受クヘキ戸長ハ酒造場所在ノ戸長タルヘシ

△一酢元用酒類並葡萄酒麥酒ヲ製造スルモノハ文例中酢元用何酒又

ハ葡萄酒ト記載シ且酢元用酒類製造者ハ文例中(同業者連署)ノ

五字ヲ除クヘシ以下之ニ倣フ

第二號

引續酒造營業御免許願

國郡區町村番地

酒造場

第何號

一酒類製造營業免許鑑札

一何酒何程△明治十五年第六十一號公布以前ヨリ引續營業者(明治廿

律第二十四號ニヨリ税則施行地

同法律發布以前ヨリ引續ノ者)及酢元用酒類製造者ハ記載ニ及ハス

右酒造場ニ於テ引續明治何年度酒造營業仕度候間御免許被下度鑑札  
相添此段相願候也

國郡區町村番地(寄留)

(原籍何々)

酒造營業人

年月日

何

某印

郡區長宛

第三號

酒造見込種目並石數御届

國郡區町村番地

酒造場

免許鑑札番號

一清酒何千何百石

白米何石

但幾仕舞ノ見込

一酛 何個

但一ト酛蒸米何斗  
麴米何斗

一燒酎何百石

酒粕何拾万貫匁

但幾釜蒸溜ノ見込

腐敗酒何拾石

一酒精何拾石

酒粕何拾万貫匁

但同上

燒酎何拾石

一味淋 何百石

白米何百石

但幾仕込ノ見込

燒酎何百石

一保命酒何拾石

味淋何石

但同上

燒酎何石

地黄何百匁

桂枝何百匁

忍冬何百匁

右ハ明治何年度酒造見込種目及石數前記之通ニ有之候尤以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

以下第二號書式ニ準スヘシ

△濁酒ハ清酒ニ白酒ハ味淋ニ銘酒ハ保命酒ニ倣ヒ記載スヘシ

第四號

酒類釀造方法書

國郡區町村番地

酒造場

免許鑑札番號

何酛一個釀造法

一蒸米何斗

一麴米何斗何舛

一水何斗何舛

此見込酛何石何斗

清酒一ト仕舞釀造法

酛米何斗

内蒸米何斗但一個何分何厘使用

此仕込水何石何斗

初添米何石何斗

内蒸米何斗  
麴米何斗

此仕込水何石何斗

中添何石何斗

内蒸米何石  
麴米何石

此仕込水何石何斗

留米何石何斗

内蒸米何石  
麴米何石

此仕込水何石何斗

合白米何石何斗  
仕込水何石何斗

但白米一石ニ付仕込水平均何石何斗此見込醪何石何

斗但白米ヨリ何割何分ノ見込此見込清酒何石何斗但醪ヨリ何割何

分ノ見込

燒酎一ト釜蒸溜法

元粕何十貫匁 但元粕十貫匁ニ付何舛取(度数凡)ノ見込

此見込燒酎何斗

元腐敗清酒何石 但元一石ニ付何斗取(度数凡)ノ見込

此見込燒酎何斗

味淋一ト仕込製造法

元燒酎何石

掛米何石何斗

内蒸米何石  
麴米何斗但何味造即白米壹石ニ  
付燒酎何石

此見込醪何石何斗 但白米ヨリ何割何分ノ見込

此見込味淋何石何斗 但醪ヨリ何割何分ノ見込

保命酒一ト仕込製造法

元

燒酎何石  
味淋何石

加味

地黄何百匁  
桂枝何百匁  
忍冬何百匁

此見込醪何石 但元酒ヨリ何割何分ノ見込

此見込保命酒何石 但醪ヨリ何割何分ノ見込  
 右ハ明治何年度酒類釀造方法前書ノ通ニ有之候尤モ以後變更候節ハ  
 其時々御届可仕候也

以下第二號書式ニ準スヘシ

△一濁酒ハ清酒ニ酒精ハ燒酎ニ白酒ハ味淋ニ銘酒類ハ保命酒ニ倣ヒ  
 記載スヘシ

△一新酒寒酒ノ類ニシテ米水割合等其釀造法異ナルモノハ特ニ別記  
 スヘシ

△一醪へ燒酎ヲ混和シテ摺リ揚クルモノハ一種ノ釀造トシテ方法書  
 中ニ記載スヘシ

△一釀造方法變更届書ハ前文例ニ準據スヘシ

第五號

酒造場建物並諸器械調書

國郡區町村番地

免許鑑札番號

酒造場

一酒造場建物 別紙圖面添

内

酒造ニ属スル分

一倉庫何間何坪

但二階何間何坪穴藏何間何坪

一同何間何坪

但掛出何間何坪麴室何間何坪



一穀藏何間何坪

一納屋何間何坪

一何々何間何坪

一何々何間何坪

酒造ニ属セサル分

一居宅何間何坪

一倉庫何間何坪

一納屋何間何坪

一桶甕並水桶米浸桶粕桶

内欠號何個

第何號 第何號 第何號

第何號ヨリ  
第何號マテ 何個

一酒槽第何號ヨリ  
第何號マテ

何個

一層枰

何個

一男柱第何號ヨリ  
第何號マテ

何本

一締メ木

何本

一掛ケ袋

何個

一垂甕

何個

一蒸溜器第何號ヨリ  
第何號マテ

幾組

一礎

幾組

一甌 但何石何斗入

何個

一蒸釜但何石何斗入

何個

一半切桶

何個

- 一 試シ桶 何個
- 一 暖氣桶 何個
- 一 桃桶 何個
- 一 擔桶 何個
- 一 柄杓但何舛何合何勺入 何個
- 一 水通ヒ樽但何斗何舛入 何個
- 一 水汲桶但何舛何合何勺入 何個
- 一 麴板 何枚
- 一 權 何個

右酒造場建物及諸器械即今所持ノ分前記ノ通相違無之候尤モ以後増減有之節ハ其時々御届可仕候也

以下第二號書式ニ準スヘシ

- △一酒造用諸器械ハ使用ト否トヲ問ハス苟モ酒造場内ニ現在シ使用シ得ヘキモノハ無洩記載スヘシ
- △一居宅其他ノ建物中ニ酒類及諸器械ヲ入置クモノハ酒造ニ屬スル部分ニ記載スヘシ

△一借用ノ物件ハ其左傍ニ國郡區町村番地何某ヨリ借用ト記スベシ  
第六號

造酒見込石數增(減)御届

國郡區町村番地

免許鑑札番號

酒造場

一清酒何百何十何石

何年月日御届高

白米何百何十石

配何十何個

一清酒何十何石

白米何十石

配何十何個

今度増造ノ分ノ見込  
何石仕舞何個

一ト配蒸米何斗  
麴米何斗

合計

清酒何百何十石

白米何百何十石

配何十何個

(減造届ハ左ノ如ク記載スヘシ)

一清酒何百何十石

何年月日御届高

白米何百何十石

配何十何個

内

清酒何十何石

白米何十何石

今度減造ノ分ノ見込  
何石仕舞何個

配何十何個

差引

清酒何百何十石

白米何百何十石

配何十何個

右ハ明治何年度酒造見込石數前書ノ通増(減)仕度此段御届仕候也

以下第二號書式ニ準スヘシ

△一都テ酒類ノ増減ハ右ニ準據スヘシ

第七號

醱醪仕込桶遣ヒ順序調

國郡區町村番地

免許鑑札番號

酒造場

醱取半切桶遣法

最初 半切何枚ニ分配

二次 半切何枚ニ合縮

三次 半切何枚ニ合縮

四次 半切何枚ニ合縮

五次 坪臺桶一個ニ入

醱仕込桶遣法

初添 三尺桶何本

中添 同 何本

留 仕込桶何本  
三尺桶何本

最後 仕込桶何本

△之レハ口打トナリ  
シ場合ト心得ヘシ

醱仕込桶遣順序號

第何號桶

仕込順號 第一號 第五號 第九號

第何號桶

同 第二號 第六號 第十號

第何號桶

同 第三號 第七號

第何號桶

同 第四號 第八號

右ハ明治何年度酖醪仕込桶遣ヒ順序前書ノ通ニ有之候尤増減並變更等有之節ハ其時々御届可仕候也

以下第二號書式ニ準スヘシ

△一清酒外酒類モ之ニ準據スヘシ

第八號

酒造桶甕容量御検査願

國郡區町村番地

免許鑑札番號

酒造場

第何號

一桶 但新調(買入)讓受(修繕)

口徑何尺何寸何分

胴徑何尺何寸何分

底徑何尺何寸何分

深サ何尺何寸何分

但シ口頭ヨリ一寸減前何尺後何尺左何尺右何尺中心何尺

此石數何拾何石何斗何舛何合

第何號

一甕 但買入(借入)

此石數何石何斗何升何合(但水量試シ)  
右容量御検査被下度此段相願候也

以下第二號書式ニ準スヘシ

△一新調買入等ノ番號ハ在來桶甕ノ順號ヲ逐ヒ起號スヘシ若シ順號  
中欠號アルトキハ其次號ヲ填補スヘシ

第九號

造酒榨留器械封緘御請書

酒造器械ノ内左ノ品々へ御封印相請候ニ付該器械使用又ハ洗滌修繕  
等ノ節其旨申立御解封可願上尤御解封ノ上ハ左ニ掲グル日數中ニ必  
ス使用又ハ洗滌修繕等ヲ了リ御再封相受可申候仍テ御封緘御解封ノ  
都度其年月日使用又ハ洗滌修繕日數ヲ左ニ掲記シ御請印仕候也

國郡區町村番地

酒造營業人

年月日

何

某印

郡區長宛

國郡區町村番地

酒造場

免許鑑札番號

表中。印並(夕)印及(一)ノ内ハ朱書

番器	械	御	御	御	御	御	御
號	同	封	封	封	開	開	開
何	品	緘	緘	緘	封	封	封
號	目	年	年	年	上	上	上
何	ケ	月	月	月	事	事	事
號	所	日	日	日	由	由	由
何	ケ	日	日	日	年	年	年
號	所	日	日	日	月	月	月
何	所	日	日	日	日	日	日
號	所	日	日	日	並	並	並
何	所	日	日	日	日	日	日
號	所	日	日	日	數	數	數
何	所	日	日	日			
號	所	日	日	日			
何	所	日	日	日			
號	所	日	日	日			

何 <sup>*</sup> 號 <sup>*</sup> 兜 <sup>*</sup> 釜 <sup>*</sup>	(一)ヶ所	明治(何)年(何)月(何)日 <sup>①</sup>	使 <sup>*</sup> 用 <sup>*</sup>	明治(何)年(何)月(何)日 <sup>①</sup>	(何)日(何)日(何)日	(何)日間 <sup>②</sup>
何 <sup>*</sup> 號 <sup>*</sup> 酒 <sup>*</sup> 糟 <sup>*</sup>	(二)ヶ所	明治(何)年(何)月(何)日 <sup>①</sup>	同 <sup>*</sup>	明治(何)年(何)月(何)日 <sup>①</sup>	(何)日(何)日(何)日	(何)日間 <sup>②</sup>
				明治	年	月
				日	日	日
				日	マ	テ
				日		間

△一朱書ノ通其時々記入(イ)印ノ處へ検査員(ロ)印ノ處へ營業人捺印  
スルモノトス

第十號

酏(醪)御検査願

國郡區町村番地

免許鑑札番號

酒造場

一酏<sup>\*</sup>第何號<sup>\*</sup>マテ

何個

但何月何日ヨリ何月何日迄酏立ノ分來ル何日頃熟成ノ見込

一醪<sup>\*</sup>第何號<sup>\*</sup>マテ

幾仕舞

但何月何日ヨリ何月何日迄仕舞ノ分來ル何日頃熟成ノ見込

右御検査被下度相願候也

清酒御検査願

第何號桶

一清酒何拾何石

但桶側面記載ノ通

第何號桶

一同何拾石何斗

但同上

第何號桶

一同何石何斗何舛何合

但入實深何尺何寸何分

合何拾何石何斗何舛何合

右ハ第何號ヨリ第何號迄擇リ揚ケノ分御検査被下度相願候也

燒酎御検査願

第何號桶

一燒酎何石何斗何合

但入實深何尺何分

(内何石 何酒元ニ御検査ヲ請フ)

右ハ何月何日ヨリ何月何日迄都合幾釜蒸溜ノ分御検査被下度相願候也

(他ノ酒類モ右ニ準據スヘシ)

何酒皆造御検査願

國郡區町村番地

免許鑑札番號

酒造場

一何酒 何程

何年何月日見込御届高

一何酒 何程

何年何月日増石御届高

合 何程

内 何程

何年何月日減造御届高

差引 何程

更 定 高

此 白米 何程

酏 何程

一何酒 何程

御検査濟石高

一何酒 何程

今度御検査受クヘ半分



内

第何號桶

何酒何程

第何號桶

同 何程

合何酒何程

内

何程

外何程

一何酒何程

内

但桶側面記載ノ通

但入實深何尺何寸何分

見込石數ニ増

(若シ減セシトキハ) 見込石數ニ減

(皆造檢査ノ際現在) 何月何日現在高

何程

自家製造

内

何程

古酒

何程

新酒

何程

買入高

右ハ明治何年度一期造酒石高書面ノ通相違無之候也

以下第二號書式ニ準スヘシ

第十一號

表

明治何年何月
酒造米元帳

横帳ニ調製スヘシ以下之レニ倣フ

裏	
國郡區町村番地	何 某
免許鑑札番號	

酒造場ト居住地ト番號異ナルモノハ併記スヘシ以下之レニ倣フ

凡例

- 一此帳簿ニハ酒造米渡ト雇人飯米渡トハ口分ケヲナシ各別ニ記入スヘシ
- 一酒造米渡ノ部ニハ元ノ蒸米麴米及掛米ノ蒸米麴米トモ洗滌ニ際シ受渡ヲナシタル毎ニ記入シ月末ニ至テ小計通計ヲ付記スヘシ

- 一飯米渡ノ部ニハ受渡每次記入シ同上ノ通り小計通計ヲ付記スヘシ
- 一清酒外ノ酒類ヲ醸造スルモノハ口分ケヲ設ケ各別ニ記入スヘシ

酒造米渡ノ部

月 日

一元麴米

何程

月 日

一元蒸米

何程

月 日

一元麴米

何程

一同蒸米

何程

一掛麴米

何程

一同蒸米

何程

小計

△一ヶ月毎ニ小計スヘシ

一元米

何程

一掛米

何程

小計

通計

△一ヶ月日ヨリ通計ヲ付スヘシ

一元米

何程

一掛米

何程

月 日

以下前ニ倣フ

雇人飯米渡ノ部

月 日

一白米

何程

何某渡

月 日

一同

何程

何某渡

小計

何程

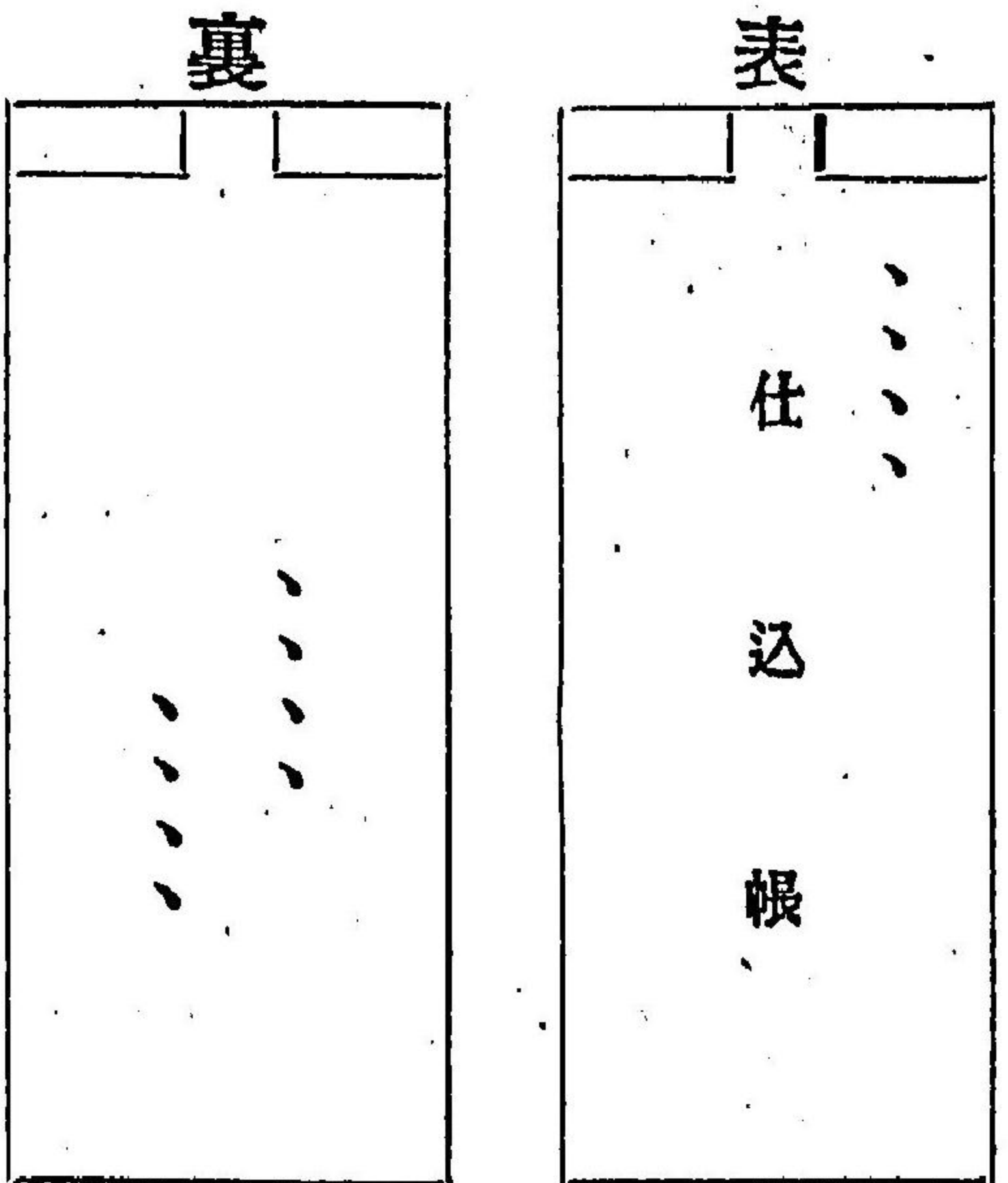
通計

何程

月 日

以下前ニ倣フ

第十二號



凡例

- 一此帳簿ニハ酛取ト醪仕込ト各別ニ記入スヘシ
- 一酛取及醪仕込トモ醸造方同一ナルモノハ一々蒸麴水等記載ニ及ハスト雖トモ順號月日ハ勿論一ト仕舞ノ計ニハ必ス石數ヲ記載スヘシ

シ

一清酒外ノ酒類ヲ醸造スルモノハ別ニ口分ケヲ設ケ記載スヘシ

酛取ノ部

月 日

第一號

水酛

蒸米

何程

麴米

何程

汲水

何程

月 日

第二號ヨリ  
第四號マテ

生酛

同上

醸造法同一ノモノハ一々記スルニ及ハス

第五號ヨリ  
第七號マテ

月 日

同

同上

小計

蒸米

何程

麴米

何程

汲水

何程

通計

蒸米

何程

麴米

何程

汲水

何程

月 日

以下前ニ倣フ

仕込ノ部

第一號

月 日

△酛立ノ月日

蒸米

何程

酛麴米

何程第一號一個

汲水

何程

月 日

蒸米

何程

添麴米

何程

汲水	何程	月	日	中	蒸米	何程	汲水	何程	留	蒸米	何程	計	何程	蒸米	何程

第二號

麵米	何程	月	日	蒸米	何程	第二號	何程	第三號	何程	第三號	何程	第三號	何程	蒸米	何程	汲水	何程	添	蒸米	何程	月	日	麵米	何程	汲水	何程			

中	蒸米	何程	月	日
中	麴米	何程		
	汲水	何程		
	蒸米	何程	月	日
	留	何程		
	麴米	何程		
	汲水	何程		
	計	何程		
	蒸米	何程		
	麴米	何程		

汲水

何程

策二號

月 日

酖 同上

何程 第三號五分  
第四號一個

月 日

添 同上

月 日

中 同上

月 日

留 同上

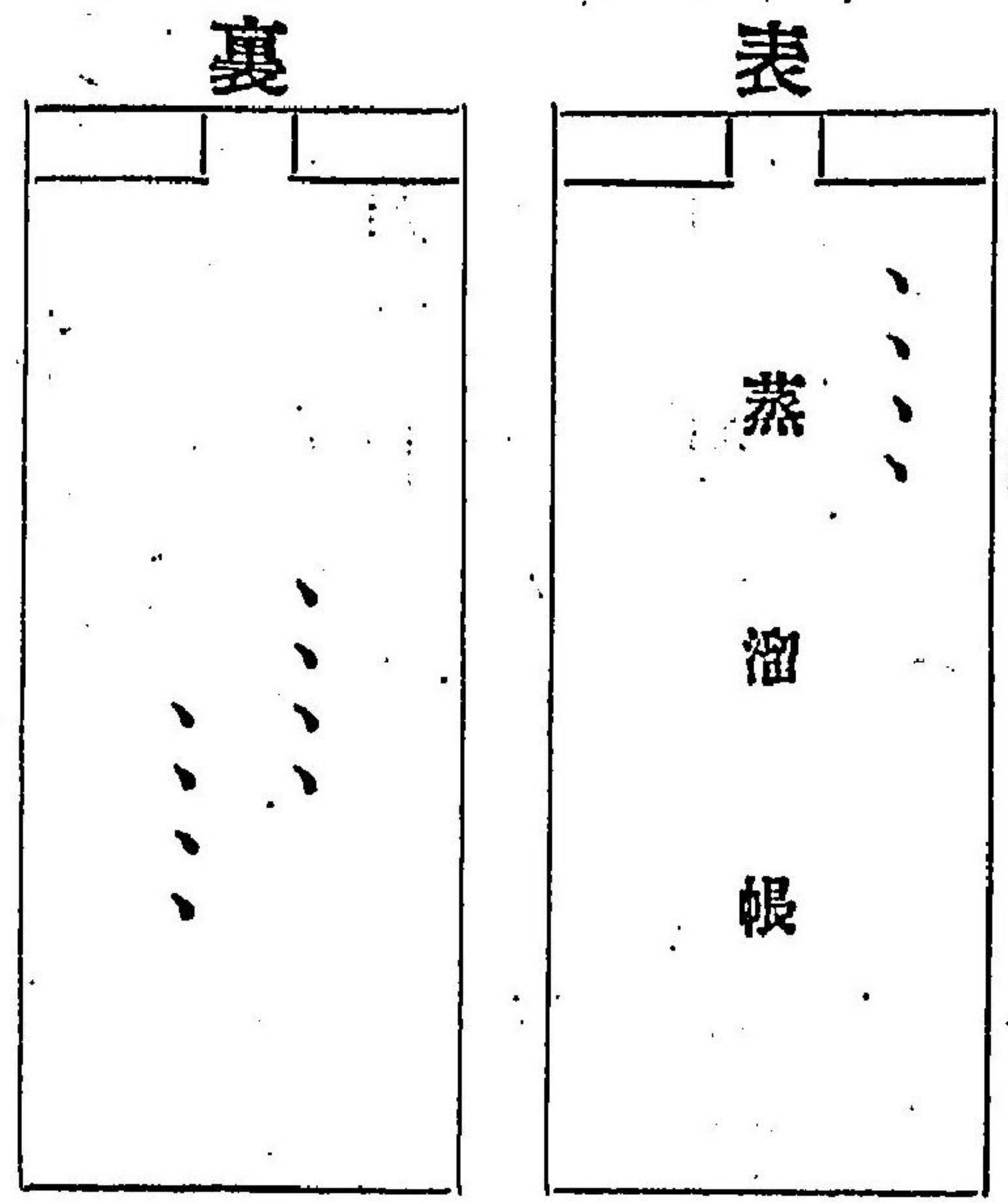
計

策二號	汲水	何程	月	日
酖 同上		何程 第三號五分 第四號一個	月	日
添 同上			月	日
中 同上			月	日
留 同上				
計				

蒸米 何程  
 麴米 何程  
 汲水 何程

以下前ニ倣フ

第十三號



凡例

一此帳簿ニハ毎日蒸溜セシ元粕ノ量目及蒸溜器械ノ番號蒸溜セシ總釜數ヲ記載シ便宜之ニ小計通計ヲ付記スヘシ

蒸溜帳

一元粕	何程	月	日	第何號ヨリ 第何號マテ	幾釜
一元粕	何程	月	日	第何號ヨリ 第何號マテ	幾釜
一元何酒	何程			第何號	幾釜
小計					
元粕	何程				



元何酒 何程

第十四號

表

粕目方帳		

裏


凡例

一此帳簿ニハ每一回搾リ揚ケタル酒粕貫數ヲ其時々記入スルモノト

ス

一粕ハ自製ト買入ハ勿論仕拂トモ口分ナナシ各別ニ記載スルモノト

ス

粕自製ノ部

月 日

第一號

一何貫何百匁

一何貫何百匁

合何百何拾貫匁

内何百匁

風袋引

差引何拾何貫匁

第二號

月 日

以下前ニ倣フ

粕買入ノ部

月 日

何郡區町村

何

某

一何十何貫匁

月 日

何郡區町村

何

某

一何十何貫匁

粕仕拂ノ部

第十五號

月 日

何郡區町村

何

某

一何十何貫匁

月 日

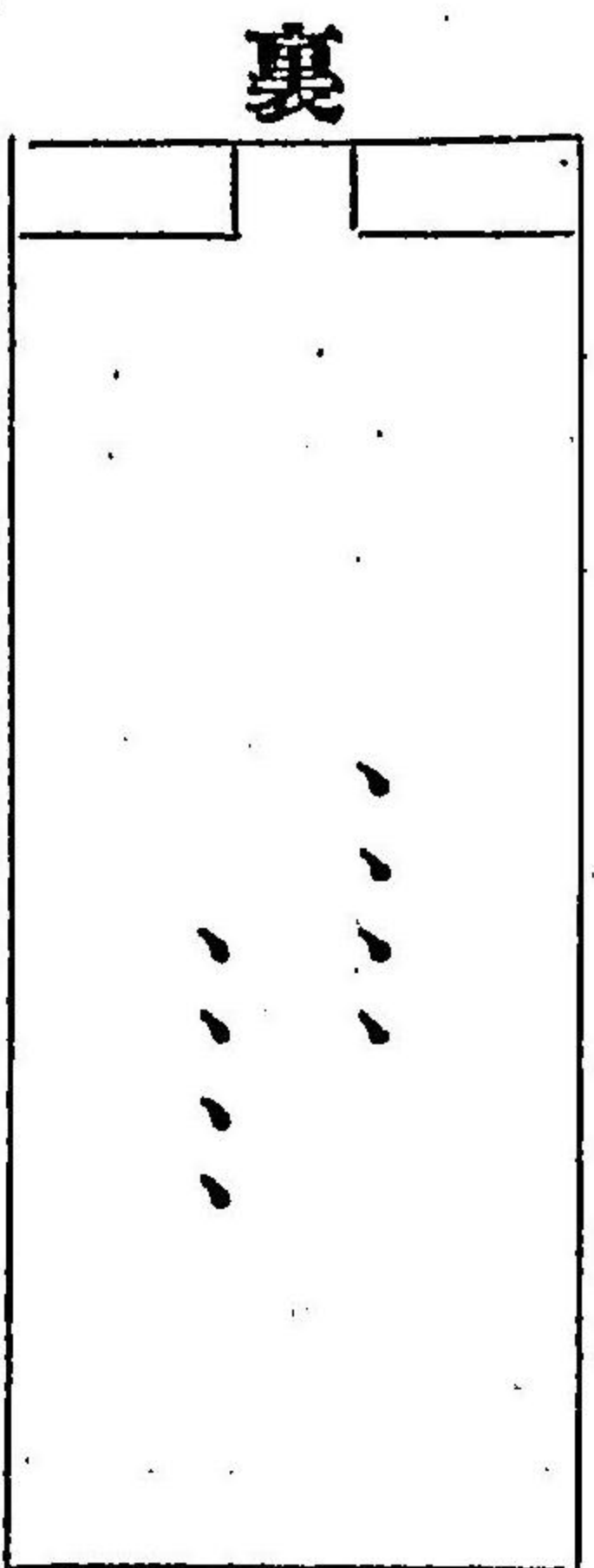
自

用

一何十何貫匁

表

酒	藏	出	帳
---	---	---	---



凡例

- 一此帳簿ニハ古酒買入酒新酒煮込酒ト各口分ヲナシ日々藏出ノ高ヲ記載シ月末ニ至テ小計通計ヲ付記スヘシ
- 一藏内ニテ直ナニ賣渡スモノハ其時々若クハ點數ヲ以テ其石數ヲ記載スヘシ
- 一小賣ニ供スル爲メ見世賣場へ酒類ヲ移ストキハ賣場出トシテ其石數ヲ記入スヘシ

一藏働キ雇人等ノ飲料ニスル酒類ハ一個ノ容器ヲ供ヘ半日若クハ一日文ノ量ヲ見積リ該帳ニ記入シ而シテ後飲用セシムヘシ

古酒ノ部

月 日

一何程 藏賣

一何程 賣場出

一何程 自家用料

月 日

一何程 藏賣

一何程 煮込

小計

何程

通計

何程

新酒ノ部

月 日

以下前ニ倣フ

賣込酒ノ部

月 日

一何程

内

何程

古酒

何程

新酒

月 日

以下前ニ倣フ

(令第六拾四號) 十一月十九日

何人タリモ格魯兒酸加溜謨(塩素酸加溜謨又ハ塩酸加里)ヲ賣買授受スルトキハ豫メ其斤量及ヒ需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署ニ届出認可ヲ受クヘシ但警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルヲアルヘシ

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ一圓以上一圓九拾五錢以下ノ科料又ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

(書式)

格魯兒酸加留謨

斤量

右ハ(醫業)(工業用等何々)必要ニ付前書ノ斤量(賣買)(授受)致度御認可被成下度候也

本籍何府何市何郡何町何番地族籍  
現住所同上

(買主)(受主) 氏

年 名 齡

何府何市何郡何町何番地族籍

(賣主)(授主) 氏

年 名 齡

年 月 日

警察署長宛

(令第六拾五號) 十二月二十日

街路取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ札幌函館根室福山江差小樽ノ六市街ニ之ヲ施行ス

但明治十二年二月開拓使函館支廳第二十二號布達明治十三年五月同廳第三十八號布達明治十五年五月札幌縣甲第二十五號布達明治十六年五月同縣甲第十八號布達明治十六年十月同縣甲第五十四號布達明治十八年九月同縣甲第六十三號布達及明治十六年十月根室縣甲第四十五號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

街路取締規則

第一章 通則

第一條 街路ト稱スルハ市街ノ道敷及道敷ニ沿フタル下水並橋梁ト

ス

第二條 本則ニ於テ自費ヲ以テ爲ス可キ義務ヲ怠ル時ハ官ニ於テ執  
行シ其費用ヲ徴收スヘシ

第二章 街路ノ安寧及保存

第三條 街路ニ建物軒檐等ヲ設ケ又ハ出スヘカラス但左ノ制限ニ從  
フモノハ此限ニアラス

- 一 釣看板ハ地盤ヲ距ル一丈以上ニ限リ二尺以内
- 二 軒檐ハ地盤ヲ距ル九尺以上ハ二尺以内六尺以上ハ一尺五寸以  
内

三 日除ハ支柱ヲ用ヒス地盤ヲ距ル七尺以上ニ限リ四尺以内

四 掲燈ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ一尺以内

五 煙筒ハ地盤ヲ距ル六尺以上ニ限リ二尺五寸以内

六 雪圍ハ道幅五間以上ハ六尺以内右以下ハ三尺以内

第四條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添へ所轄郡區役所ヲ經由シテ本廳

ニ願出許可ヲ受クヘシ

一 街路ヲ私費ニテ新設變更又ハ廢除スル事

第五條 左ノ事項ハ其場ノ圖面ヲ添へ所轄郡區役所又ハ戸長役場ニ

願出許可ヲ受クヘシ

一 街路ヲ私費ニテ修繕スル事

第六條 左ノ事項ハ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ

- 一 街路ニ床店又ハ葎竇張ヲ設クル事
- 二 街路ニ樹木ヲ植へ又ハ旗柱街燈ヲ建ツル事
- 三 街路ニ柵欄支柱ヲ設ケ又ハ齒止石ヲ置ク事

- 四 街路ニ華表碑表指道標其他公衆ノ用ニ供スル標識ヲ建設スル事
- 五 街路ニ目塗土置場ヲ設クル事
- 六 工事又ハ商業ノ爲メ街路ニ一時竹木土石類ヲ置キ若クハ板圍繩張足代ヲ設ケ其他街路ヲ使用スル事
- 七 街路ヲ經テ建物ヲ移シ又ハ街路ヲ壅塞スヘキ長大ノ物件ヲ運搬スル事
- 八 神佛祭典又ハ歲市等ノ節街路ニ一時舞臺小屋掛店飾ヲ設クル事
- 九 街路ニ神輿山車又ハ手踊屋臺ヲ出ス事
- 十 工事ノ爲メ一時通行ヲ禁止スル事

- 十一 祭典興行等ノ節一時街路ニ幟ヲ建テ又ハ釣提灯ヲ設クル事
- 十二 街路ニ本則第三條六項制限外ノ雪圍ヲ設クル事
- 十三 街路ニ於テ荷造木挽其他ノ作業ヲ爲ス事
- 第七條 街路ヲ使用シテ之ヲ毀損シタルトキハ直ニ原形ニ復スヘシ
- 第八條 街路ニ出タル軒檐ニ雨樋ヲ設ケタル時ハ檐溜又ハ下水ノ外街路ノ地盤ニ流出スルヲ得ス
- 第九條 街路ニ沿フタル宅地ニシテ奥行九尺以上ノ空地アル場所ハ其模樣ニ依リ道敷ノ境界ニ墻塀ヲ設クヘシ
- 第十條 街路ニ沿フタル場所ニ竹木ヲ立置ク時ハ鍊鎖又ハ強靱ナル繩索ヲ以テ纏束シ薪炭其他ノ物件ヲ堆積スル時ハ頭仆セサル様堅牢ノ装置ヲ爲スヘシ

第十一條 街路ニ沿フル建設物及樹木等崩壞顛仆ノ虞アル時ハ速ニ修理撤去又ハ扶植伐採スヘシ

第十二條 街路ニ竹木土石類其他運搬中ノ物件ヲ置ク時ハ路傍ニ片寄セ標識ヲ設クヘシ

第十三條 街路及河川溝渠下水橋梁ヲ毀損壅塞シ街路ノ樹木ヲ伐採シ又ハ街燈ヲ破毀消滅スヘカラス

第十四條 榜示指道標便所及墻壁等ヲ毀棄汚損シ又ハ樂書貼紙ヲ爲スヘカラス

第十五條 街路ニ家畜ヲ放置シ通行ノ妨害ヲ爲スヘカラス

第十六條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ商品薪炭其他ノ物件ヲ排列シ又ハ出シ置クヘカラス

第十七條 街路ニ於テ火器ヲ弄シ又ハ焚火ヲ爲スヘカラス

第十八條 街路ニ於テ濫リニ放歌シ又ハ高吟喧噪シ若クハ偃臥スヘカラス

第十九條 街路ニ於テ指定シタル場所外ニ露店屋臺店ヲ出スヘカラス

第二十條 行商ニ用フル荷車ハ長サ八尺幅三尺屋臺店ハ長サ六尺幅四尺ヲ超過スヘカラス

第三章 街路ノ清潔

第二十一條 街路ハ常ニ清潔ニ掃除シ塵芥雜草ヲ存スヘカラス

第二十二條 街路ノ積雪ハ踏ミ固メ又ハ取片付ヲ爲シ通行ヲ便ニスヘシ



第二十三條 取片付タル雪ハ便宜妨害トナラサル場所ニ運ヒ置クヘ

第二十四條 炎天及風日ニハ時々街路ニ淨水ヲ洒クヘシ

第二十五條 街路ノ掃除並降雪取片付及洒水ハ兩側ニ居住人アルモノハ其居住人ニ於テ街路ノ中央ヨリ各一半ヲ負擔シ片側居住人ナキ時ハ其全部ヲ負擔スヘシ若シ兩側共ニ居住人ナキ時ハ地主又ハ借地人若クハ管理者ニテ負擔スヘシ

第二十六條 街路ニ汚水ヲ注クヘカラス

第二十七條 街路ニ塵芥其他汚穢物ヲ投棄スヘカラス

第二十八條 下水ハ毎年二回以上浚濬スヘシ其濬ヒ揚ケタル淤泥塵芥等ヲ街頭ニ置クヘカラス

第二十九條 街路ニ於テ便所ニアラサル場所ニ大小便ヲ爲シ又ハ爲

サシムヘカラス

第三十條 街路ヲ運搬スル物品ハ墜落漏出又ハ飛散セシムヘカラス

第三十一條 街路ニ臨ミタル屋根物干又ハ窓手摺等ニ危險ナル物品若クハ見苦敷物品ヲ置クヘカラス

#### 第四章 街路ノ通行

第三十二條 牛馬及諸車諸櫛ハ夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第三十三條 馬車牛車及馬櫛ハ路幅三間以内ノ街路ヲ通行スヘカラス但其街路ニ沿フタル家屋ニ出入スルモノハ此限ニアラス

第三十四條 小兒車ノ外ハ跡押ノミニテ運轉スヘカラス但阪路ハ此限ニアラス

第三十五條 末口ノ尖リタル竹木等ヲ運搬スル時ハ其末口ヲ纏束ス

ヘシ

第三十六條 牛馬及諸車諸橋ハ車馬道ノ設アル地ハ左側其他ハ街路

シ

ノ中央ヲ通行スヘシ但降雪中ハ行人ノ妨害トナラサル様避讓スヘ

第三十七條 牛馬及諸車諸橋ヲ並ヘ輓キ又ハ濫リニ疾驅シテ通行ノ

妨害ヲ爲スヘカラス

第三十八條 荷馬車及荷馬橋ヲ疾驅スヘカラス

第三十九條 車及橋ハ二臺以上ヲ連繫シテ輓クヘカラス但長大ノ物

件ヲ運搬スル爲メ數臺ヲ連結スルハ此限ニアラス

第四十條 牛馬ハ口取ナクシテ追立又ハ二頭以上ヲ連繫シテ牽クヘ

カラス但賣買等ノ爲メ輸送スル牛馬及營業等ノ爲メ官許ヲ得タル  
モノハ此限ニアラス

第四十一條 口取ナクシテ轡ナキ馬ニ乗ルヘカラス

第四十二條 車馬及歩行者行逢フ時ハ互ニ左ニ避ケ軍隊前砲車輻重

車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

第四十三條 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ

於テ避讓スヘシ

第四十四條 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ合圖ヲ爲

シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

第四十五條 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行逢フ時ハ避

讓スヘシ

第四十六條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通行スル車馬ハ徐行スヘシ

第四十七條 車馬街角ヲ通行スル時ハ右ハ大廻ヲナシ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第四十八條 牛馬諸車其他通行ニ妨害アル物件ヲ街路ニ置クヘカラス

第四十九條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他雜沓ノ場所ニ牛馬諸車ヲ牽入ルヘカラス

第五十條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ牛馬諸車ヲ駐止スヘカラス

第五十一條 街路ニ佇立シ又ハ空車ヲ輓テ彷徨シ通行ノ妨害ヲナス

ヘカラス

第五十二條 街路ニ於テ犬其他ノ獸類ヲ吠シ又ハ驚逸セシメ若クハ殘虐ニ扱フヘカラス

第五十三條 制止ヲ肯セスシテ街路ニ於テ紙鳶ヲ揚ケ又ハ獨樂手毬等ヲ弄シ若クハ雪投雪ニ等ヲ爲スヘカラス

第五十四條 街路ニ於テ坐席ヲ設ケ軍談輕業其他人寄ヲ爲スヘカラス

第五十五條 人道車馬道ノ區別アル場所ニ在テハ牛馬諸車諸橋ヲ人道ニ牽入ルヘカラス但人道ニ於テ小兒車ヲ押ス者及居住者ハ此限ニアラス

第五十六條 本則第三條第四條第五條第六條第十三條第十四條第十

六條第十七條第十八條第二十六條第二十七條第二十九條第三十二條第三十三條第三十四條第三十六條但書第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十八條第四十九條第五十條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

(令第六拾六號) 十一月二十日

明治三十年<sup>月</sup>北海道廳令第九拾號北海道廳違警罪目第一條ニ左ノ項ヲ追加シ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス

十四 街路取締規則ニ違背シタル者

(令第六拾七號) 十一月廿一日

宿屋取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス

但明治十一年<sup>月</sup>一 開拓使函館支廳第百拾四號布達明治十四年<sup>月</sup>同廳第五拾號布達明治十六年<sup>月</sup>三 函館縣甲第拾號布達同年<sup>月</sup>三 同縣甲第拾九號布達明治十七年<sup>月</sup>五 同縣甲第十三號布達及明治十六年<sup>月</sup>六 根室縣甲第三拾三號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

宿屋取締規則

第一章 通則

第一條 宿屋ヲ分テ旅人宿下宿屋木賃宿ノ三種トス

第二條 宿屋營業ヲ爲サントスル者ハ其種類ヲ記シ營業用ニ供スル建物及間取等ヲ記シタル圖面ヲ以テ所轄警察署又ハ分署ニ願出允許ヲ請フヘシ其間取等ヲ變更シタル時ハ圖面ヲ以テ届出認可ヲ受クヘシ

第三條 左ノ各項ニ觸ル、者ハ允許ヲ與ヘス

一 未丁年者ニシテ後見人ナキ者

二 白痴瘋癲者

三 強盜盜及詐偽取財ノ罪ヲ犯シタル者

四 監視中ノ者

第四條 改氏名又ハ廢業シタル時ハ其旨所轄警察署又ハ分署ニ届出  
ヘシ

第五條 宿屋營業人ハ看板ヲ店頭ニ掲クヘシ

第六條 營業人ハ所轄警察署又ハ分署部内ヲ以テ區域トシ其種類ニ  
從ヒ各組合ヲ設クヘシ但部内ノ狀況ニ依リ警察署又ハ分署ノ認可  
ヲ受ケ便宜之ヲ數組トナスコトヲ得

第七條 組合ヲ設ケス又ハ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲スヘカラス

第八條 組合ニハ各營業人中ヨリ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又ハ  
分署ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 宿屋營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スル事

二 組合營業人ノ願届ニ加印スル事

三 取締ノ撰擧ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第十條 組合ニ於テハ規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ク  
ヘシ

第十一條 強テ客ヲ誘引スヘカラス

第十二條 宿泊人ノ所有品ハ特ニ其寄托ヲ受ケサルモ紛失セサル様  
注意スヘシ

第十三條 宿泊人ノ承諾ナクシテ來訪者其他ノ者ヲ濫リニ其室内ニ  
入ラシムヘカラス

第十四條 宿泊人疾病ニ罹ル時ハ醫藥食物等其求メニ應シ特ニ懇切  
ニ取扱フヘシ

第十五條 宿泊人變死ニ係リ又ハ其所有品紛失シタル時ハ即時ニ警  
察署分署巡查交番所若クハ巡行ノ巡查ニ届出ヘシ

第十六條 宿泊料ノ抵償トシテ私擅ニ宿泊人ノ所有品ヲ押取シ又ハ  
受領スヘカラス

第十七條 宿泊人ニ遊興ヲ勸メ又ハ宿泊料外ノ金錢ヲ得ル目的ヲ以

テ客ノ求メナキ飲食物ヲ供スヘカラス

第十八條 宿泊料其他宿泊人ニ關スル緊要ノ事項ハ帳場及客ノ見易  
キ場所ニ揭示スヘシ

第十九條 午後十二時後歌舞音曲ヲ爲サシムヘカラス

### 第二章 旅人宿

第二十條 旅人宿ハ客室ニ充分ノ光線ヲ取り且空氣ノ流通ヲ便ナラ  
シムヘシ

第二十一條 客室毎ニ堅固ナル錠前附ノ押入又ハ戸棚等ヲ設クヘシ  
第二十二條 二階以上ノ客室二十坪以上アルモノハ階子二箇以上ヲ  
設クヘシ但階子ノ幅ハ四尺以上タルヘシ

第二十三條 便所ハ臭氣ノ客室ニ及ハサル所ニ設ケ尿尿ヲ受容スヘ

キ部分ハ漏脱渗透セサル様構造スヘシ  
 第二十四條 便所ハ日々清潔ニ掃除ヲ爲スヘシ  
 第二十五條 客室ノ番號ハ其出入口ニ揭示スヘシ  
 第二十六條 正當ノ理由ナクシテ旅人ノ宿泊ヲ拒絕スヘカラス  
 第二十七條 旅人宿營業人ハ左ノ書式ニ從ヒ宿泊人名簿ヲ調製シ宿  
 泊人發著毎ニ原簿ニ記入シ且甲乙書式ニ從ヒ所轄警察署又ハ分署  
 ニ届出ヘシ但警察署分署ナキ地ハ甲乙書式ノ届出ヲナスニ及ハス  
 宿泊人名簿書式 (用紙寸法)

番號	氏名	年齢	職業	家族	籍住	所	相貌ノ 特徴其 泊前夜 所宿 行先地	到著月 日時刻	出發月 日時刻

甲號 (用紙寸方)  
 適宜


氏名	明治何年 何月何日 投宿届	第何年 何月何日	族籍	住所	年齢
郡區町村番地族籍 屋號 何 某					

號		職業	前夜宿泊所	行先地	投宿日時	相貌特徵其他事故

乙號

明治何年 何月何日	出發屆	郡區町村番地族籍 屋號 何 某 ㊦
氏名		
投宿番號		
出發日時		

第三章 下宿屋

第二十八條 下宿屋トハ一ヶ月ノ賄料座敷料等ヲ約定シ寄寓セシムルモノヲ云フ

第二十九條 下宿屋營業人ハ下宿人ノ族籍住所職業氏名年齢及下宿ノ事由ヲ記シタル届書ヲ所轄警察署又ハ分署ニ差出シ檢印ヲ受ケ所持スヘシ

第三十條 本則第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條ハ下宿屋ニ於テモ適用スヘシ

第三十一條 下宿屋ハ下宿人ノ族籍氏名ヲ記シタル木札ヲ店頭又ハ門戸ニ揭示スヘシ

第三十二條 下宿人他ニ轉宿シ又ハ三日以上外泊シテ其所在不分明ナル時ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出スヘシ



第四章 木賃宿

第三十三條 木賃宿ハ宿泊人滯在中外泊シタル者アル時ハ所轄警察署又ハ分署ニ届出スヘシ但警察署分署ナキ地ハ帳簿ニ記入シ警察官吏ノ調査ニ備フヘシ

第三十四條 宿泊人届出方ハ本則第二十七條ノ例ニ從フヘシ

第三十五條 本則第二條第四條第十一條第十五條第十六條第十七條

第十九條第二十七條第二十九條第三十二條第三十三條第三十四條

ニ違背シタル者及第七條ニ違背シ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

(令第六十八號) 十一月廿一日

明治二十二年十一月十一日 北海道廳令第六十七號宿屋取締規則第二條營業用

ニ供スル建物及間取ニ關スル事項及第二十條ヨリ第二十五條ニ至ル

マテ并第三十條ハ札幌函館兩區福山江差壽都岩内小樽増毛室蘭釧路厚岸根室各町及森苫小牧浦河幌泉ノ四ヶ村ヲ除クノ外當分之ヲ施行

セス

(令第六拾九號) 十一月廿二日

函館新水道取締規則左ノ通り定ム

函館新水道取締規則

第一條 龜田郡赤川水道用水取入口及其上流二百間以内ニ於テ魚鳥ヲ捕リ又ハ游泳シ又ハ諸物品ヲ洗フ可カラス

第二條 前條ノ場所及沈澱池配水池ニ瓦礫其他ノ物品ヲ投棄シ又ハ

凡テ水質ヲ汚瀆スルノ所爲ヲナス可カラス

第三條 鉄管其他水道属具ヲ發掘シ又ハ凡テ之ヲ傷害スルノ所業ヲ爲ス可カラス

第四條 公道ニアラザル水道敷地内ニ諸車牛馬等ヲ牽入又ハ土堤ニ上リ又ハ擅ニ其竹木下草ヲ伐採ス可カラス

第五條 供水栓防火栓其他水道ニ属スル一切ノ用具ヲ濫ニ使用シ又ハ玩弄ス可カラス

第六條 供水栓近傍ニ於テ魚鳥又ハ諸物品ヲ洗フ可カラス

第七條 本則各條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラル可シ

(令第七拾號) 十二月二十二日

明治二十年<sup>十月</sup>北海道廳令第九拾號北海道違警罪目第一條ニ左ノ項ヲ追加ス

十五 函館新水道取締規則ニ違背シタル者

(令第七拾壹號) 十二月二十七日

乗合馬車取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ左ノ地ニ施行ス

但明治十五年<sup>九月</sup>函館縣甲第三拾壹號布達及明治十六年<sup>一月</sup>同縣甲第二號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

札幌區内

札幌ヨリ室蘭ニ至ル

札幌ヨリ石狩ニ至ル

函館區内

函館ヨリ森ニ至ル

函館ヨリ江差ニ至ル

函館ヨリ下湯川ニ至ル

小樽市街

乗合馬車取締規則

第一章 通則

第一條 乗合馬車營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許証ヲ受クヘシ

第二條 營業人ニ關スル願届ハ総テ取締ノ加印ヲ要ス

第三條 營業人ハ馭者馬丁ノ住所氏名年齢ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ

第四條 營業人自ラ馭者馬丁ノ業ヲ爲サントスル時ハ総テ馭者馬丁

ノ例ニ從フヘシ

第五條 馭者馬丁ノ鑑札ハ毎年一回所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受クヘシ其検査ヲ受ケサル者ハ無効タルヘシ

第六條 車體及馬匹ハ營業出願ノ節及毎年四月所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ其証ヲ受クヘシ其買受讓受ヲ爲シ又ハ車體ヲ新造改造シタル時ハ定期ニ拘ハラス同上ノ手續ヲ爲スヘシ

第七條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出書換又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許証車馬検査証鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
- 二 免許証車馬検査証鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許証車馬検査証又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

一 廢業又ハ車馬ノ使用ヲ廢シタル時

二 車馬ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

三 馭者馬丁ノ使用ヲ能メタル時

第九條 免許証車體検査証鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十條 乗客ノ員數ハ車體馬力ニ應シ之ヲ定メ所轄警察署又ハ分署

ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條 車體検査証ハ車體内部ノ見易キ所ニ釘付シ馬匹検査証ハ馬首ニ結著スヘシ

第十二條 検査証アル車馬ト雖モ第十三條第十四條ノ制限ニ適セズ

又ハ危險ノ虞アルモノ及不潔ニ至リタルモノハ其使用ヲ差止ルコトアルヘシ

第二章 車體馬匹及器具

第十三條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附属品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 車ハ四輪以上ニシテ適當ナル駐車器ヲ備フヘキモノトス

二 車體ハ無地漆塗等ニシテ屋根ハ木製其他適當ノモノヲ以テ設

クヘシ

三 客坐ハ清潔ニ適當ノ装置ヲ爲スヘキモノトス但一人ノ坐席ハ

幅一尺二寸ヲ下ルヘカラス

四 車體其他ノ附属品トモ總テ堅牢強靱ノモノヲ用フヘシ

第十四條 馬匹ハ滿三歳以上強壯ニシテ惡癖ナキモノニ限ルヘシ

第二章 馭者馬丁ノ資格及服裝

第十五條 馭者ハ滿十八年以上馬丁ハ滿十七年以上ニシテ身體強壯ナル者且馭者ハ馭術ニ熟達スル者ニ限ルヘシ

第十六條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ左ノ各項ニ觸ル、モノハ馭者馬丁タルヲ得ス

一 暴行醉狂ノ癖アル者

二 監視中ノ者

三 強竊盜強姦及過失ニアラサル殺傷罪ヲ犯シタル者

第十七條 馭者馬丁ノ服裝ハ筒袖ニズボン股引ノ類ヲ用フヘシ

第四章 馭者馬丁就業制限

第十八條 馭者馬丁ハ鑑札ヲ所持シ警察官吏又ハ乗客ニ於テ見シ

ヲ求メタル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十九條 馭者ハ馬車ヲ離ルヘカラス但止ムヲ得サル事故アル時ハ

馬丁又ハ其他ノ者ヲシテ馬車ノ管守ヲ爲サンシメ進行ヲ止ムヘシ

第二十條 往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ馬車ヲ置クヘカラス

第二十一條 老幼及婦女昇降ノ際ハ懇篤ニ保護ヲ爲スヘシ

第二十二條 乗客著席シ又ハ降車シ畢リタル後ニアラサレハ車ヲ運

轉スヘカラス

第二十三條 乗客中粗暴ノ所爲アル時ハ之ヲ制止シ若シ肯セサル時

ハ降車セシムヘシ

第二十四條 馭者臺ニ客ヲ乘載シ又ハ屋根ニ物品ヲ載スヘキ構造ヲ

爲サスシテ物品ヲ載スカヘラス

第二十五條 制止ヲ肯セスシテ出火場其他群衆ノ場所ニ馬車ヲ入ルヘカラス

第二十六條 他人ヲシテ馬ヲ馭セシムヘカラス

第二十七條 馬車ヲ並ヘ馳セ又ハ濫ニ疾驅シ若シクハ競走スヘカラス

第二十八條 馬車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 馬車ハ道路ノ中央ヲ通行シ車馬及歩行者ニ行逢フ時ハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ坂路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ相當ノ合圖ヲ爲

シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

四 郵便用消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行逢フ時ハ避讓スヘシ

五 二車以上引續キ行進スル時ハ後車ハ前車ヨリ相當ノ距離ヲ取ルヘシ

第二十九條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行シ相當ノ合圖ヲ爲シ且馬丁アルモノハ前行セシムヘシ街角ニ於テハ右ハ大廻ヲ爲シ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第三十條 街角橋上其他往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第三十一條 馬匹ヲ殘虐ニ使用スヘカラス

第三十二條 夜中燈火ナクシテ行車スヘカラス

第三十三條 定員三分ノ一以上ノ乗客アル時ハ正當ノ理由ナクシテ出車ヲ拒ムヘカラス

第三十四條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ナキヤニ注意シ若シ之アル時ハ直ニ返付スヘシ其主分明ナラサル時ハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所ニ届出ヘシ

第五章 乗載制限

第三十五條 定員外ノ客ヲ乗載スヘカラス但十年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見三儼シ年未滿ノ者ハ定員外トス

第三十六條 左ニ記載シタルモノハ乗載スヘカラス

- 一 六種傳染病者及癩病者

二 汚穢物其他惡臭ヲ發シ又ハ汚染ノ憂アル物品

第六章 賃錢

第三十七條 賃錢ハ人馬車繼立營業規則ニ依リ認可ヲ受ケタル賃額ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出且車内見易キ所ニ揭示スヘシ

第三十八條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ賃錢定額外ノ金錢ヲ請求スヘカラス

第七章 營業組合

第三十九條 乗合馬車營業人ハ警察署又ハ分署部内ヲ以テ區域トシ組合ヲ設クヘシ但部内ノ狀況ニ依リ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ便宜之ヲ數組トスルヲ得

第四十條 組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲スヘカラス

第四十一條 組合ニ於テハ規約ヲ設ケ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條 組合ニハ營業人中ヨリ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第四十三條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

一 乗合馬車營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スル事

二 組合營業人ノ願届ニ加印スル事

三 取締ノ選舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事

右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第四十四條 警察署又ハ分署ニ於テ取締ニ不都合アリト認ムル時ハ改撰セシムルコトアルヘシ

第四十五條 乗合馬櫛營業ヲ爲ス者ハ總テ本則ニ從フヘシ但客ヲ乗載スル函ノ構造制限及ヒ裝置等ハ車體ニ準シ且馬首ニハ鈴ヲ結著スヘシ

第四十六條 乗合馬車營業人ハ引續キ乗合馬櫛營業ヲ爲スヲ得

第八章 罰例

第四十七條 本則第一條第三條第四條第六條第七條第九條第十條第十一條第十八條第十九條第二十條第二十二條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第四十條第四十五條ニ違背シタル者ハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ

(令第七拾貳號) 十一月二十八日



營業人力車取締規則左ノ通相定メ明治二十三年一月一日ヨリ左ノ地ニ施行ス

但明治十八年一月一函館縣甲第貳號布達及同年二月二同縣第六號布達ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

札幌區

札幌郡豐平村

函館區

龜田郡龜田村

龜田郡下湯川村

小樽市街

營業人力車取締規則

第一章 通則

第一條 人力車營業トハ輓子ヲシテ車ヲ輓カシメ又ハ自ラ輓子トナリ營業スルヲ云フ

第二條 人力車營業ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署又ハ分署ニ願出免許証ヲ受クヘシ

第三條 營業人ニ關スル願屆ハ總テ取締ノ加印ヲ要ス

第四條 營業人ハ輓子ノ族籍住所氏名年齢ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出一人ニ付鑑札一個ヲ受クヘシ

第五條 營業人自ラ車ヲ輓ク時ハ總テ輓子ノ例ニ從フヘシ

第六條 輓子ノ鑑札ハ毎年四月所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ク可シ其検査ヲ受ケサルモノハ無効タルヘシ

第七條 車體ハ營業出願ノ節及毎年四月所轄警察署又ハ分署ノ検査ヲ受ケ其証ヲ受クヘシ其新造改造又ハ讓受ヲ爲シタル時ハ定期ニ拘ハラヌ届出検査ヲ受クヘシ

第八條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出書替又ハ再渡ヲ請フヘシ

- 一 轉居改氏名其他免許証車體検査証鑑札面ニ異動ヲ生シタル時
- 二 免許証車體検査証鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ其文字不分明ニ至リタル時

第九條 左ノ場合ニ於テハ所轄警察署又ハ分署ニ届出免許証車體検査証又ハ鑑札ヲ返納スヘシ

- 一 廢業又ハ廢車シタル時

二 人力車ヲ賣渡シ又ハ讓渡シタル時

三 輓子ノ使用ヲ罷メタル時

第十條 免許証車體検査証鑑札ハ之ヲ貸與スヘカラス

第十一條 車體検査証ハ車ノ蹴込板正面ニ釘付スヘシ

第十二條 検査証アル車ト雖モ第十三條ノ制限ニ違ヒ又ハ破損若クハ不潔ニ至リタルヲ認ムル時ハ其使用ヲ差止ムヘシ

第二章 車體ノ構造及輓子ノ資格

第十三條 車體ハ堅牢ニシテ其構造及附屬品ハ左ノ制限ニ從フヘシ

- 一 一人乗ハ横巾内法二尺未滿二人乗ハ同上二尺以上タルヘシ
- 二 車體ハ無地漆塗等ニシテ中張ハ革天鵝絨羅紗其他適當ノモノヲ用フヘシ

- 三 車體ニ同キ塗色ノ泥除ヲ備フヘシ
  - 四 ゴム引又ハ桐油製ノ母衣及前掛ヲ備フヘシ
  - 五 不潔ナラサル蒲團及膝掛ヲ備フヘシ
  - 六 細長提灯ヲ備ヘ且蠟燭摺付木ヲ用意スヘシ
- 第十四條 輓子ハ左ノ資格ヲ有スル者ニ限ルヘシ
- 一 年齡滿十七年以上ニシテ身體強壯ナル者
  - 二 其土地ノ路程ヲ畧知スル者
- 第十五條 前條ノ資格ニ適合スト雖モ左ノ各項ニ觸ル、者ハ輓子タルヲ得ス
- 一 監視中ノ者
  - 二 強窃盜強姦及幼者ヲ略取誘拐スル罪若クハ過失ニアラザル殺

傷罪ヲ犯シタル者

第十六條 輓子ノ服裝ハ法被股引ノ類ヲ用フヘシ

第三章 輓子就業制限

第十七條 輓子ハ鑑札及賃錢表ヲ所持シ警察官吏又ハ乘客ニ於テ見  
ンコトヲ求メタル時ハ直ニ之ヲ示スヘシ

第十八條 路上ニ彷徨シ又ハ佇立スヘカラス

第十九條 往來ノ妨害トナルヘキ場所ニ人力車ヲ置ヘカラス

第二十條 乘客ノ指定セサル宿泊店飲食店及其他ノ場所ニ輓入ルヘ

カラス

第二十一條 制止ヲ肯ンセズシテ出火場其他群集ノ場所ニ輓入ルヘ

カラス

第二十二條 人力車ノ通行及避讓方ハ左ノ例ニ從フヘシ

一 人力車ハ道路ノ中央ヲ通行シ車馬及歩行者ニ行逢フ時ハ左ニ避ケ軍隊並砲車輜重車ニ對シテハ右ニ避クヘシ

二 實車ニ對シテハ空車之ヲ避ケ阪路ハ上リ車又ハ空車ニ於テ避讓スヘシ

三 前車徐行シ後車疾行セントスル時ハ後車ヨリ合圖ヲ爲シ前車ハ右ニ避ケ後車ハ左ヲ通過スヘシ

四 郵便消防用ニ供スル車馬又ハ葬送等ニ行逢フ時ハ避讓スヘシ

第二十三條 往來雜沓又ハ狹隘ノ場所及街角橋上ヲ通過スル時ハ徐行スヘシ且街角ヲ過クル時ハ右ハ大廻ヲ爲シ左ハ小廻ヲ爲スヘシ

第二十四條 車ヲ並ヘ輓キ又ハ連繫シテ輓クヘカラス

第二十五條 夜中燈火ナクシテ疾驅スヘカラス

第二十六條 街角橋上其他往來ノ妨害ト爲ルヘキ場所ニ於テ客ヲ昇降セシムヘカラス

第二十七條 乗客降車ノ際ハ其遺留品ヲキヤニ注意シ若シ之アリタル時ハ直ニ還付スヘシ其主分明ナラサルトキハ速ニ最寄警察署分署又ハ巡查交番所ニ届出ヘシ

#### 第四章 車賃

第二十八條 人力車ノ賃錢ハ人馬車繼立營業規則ニ依リ認可ヲ受ケタル賃額ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届出ヘシ

第二十九條 何等ノ名義ヲ以テスルモ乗客ニ對シ定額外ノ賃錢ヲ請

求スヘカラス

第三十條 汽車停車場其他群集ノ場所ニ至ラントスル時ハ到著前其  
價錢ヲ請求スルヲ得

第五章 乗載制限

第三十一條 一人乗ニ二人二人乗ニ三人以上ヲ乗載スヘカラス但十  
年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ト見做シ三年未滿ノ者ハ定員外トス  
第三十二條 左ニ記載シタルモノハ人力車ニ乗載スヘカラス但警察  
官吏ノ認可ヲ得タル時ハ此限ニアラス

- 一 六種傳染病者及癩病者
- 二 汚穢物其他車ヲ汚染シ又ハ惡臭ヲ留ムヘキ物品

第六章 營業組合

第三十三條 人力車營業人ハ警察署又ハ分署部内ヲ以テ區域トシ組  
合ヲ設クヘシ但部内ノ狀況ニ依リ警察署又ハ分署ノ認可ヲ受ケ便  
宜之ヲ數組トスルヲ得

第三十四條 組合ヲ設ケス又ハ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲スヘカラ  
ス

第三十五條 組合ニハ營業人中ヨリ取締一人ヲ公撰シ所轄警察署又  
ハ分署ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條 組合ニ於テハ規約ヲ定メ所轄警察署又ハ分署ニ届出認  
可ヲ受クヘシ

第三十七條 取締ニ於テ取扱フヘキ事項左ノ如シ

- 一 人力車營業ニ關スル規則命令ヲ營業人ニ通知スル事

- 二 組合營業人ノ願届ニ加印スル事
  - 三 取締ノ撰舉ニ關スル事務ヲ取扱フ事
- 右ノ外規約ヲ以テ定メタル事項

第三十八條 警察署又ハ分署ニ於テ取締ニ不都合アリト認ムル時ハ改撰セシムルコトアルヘシ

第三十九條 雪中函櫃等ヲ以テ人力車ニ換フルモノハ總テ本則ニ從フヘシ

### 第七章 罰例

第四十條 本則第二條第四條第五條第七條第八條第十條第十一條第十七條第十九條第二十條第二十一條第二十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條第三十二條第三十九條ニ違背シタル者

及第三十四條ニ違背シ組合ニ入ラスシテ營業ヲ爲シタルモノハ違警罪ヲ以テ罰セラルヘシ但刑法ニ正條アルモノハ其本法ニ從フ

(令第七拾參號) 十一月二十九日

北海道新設市街地貸下手續左ノ通り定ム

### 北海道新設市街地貸下手續

第一條 北海道ニ於テ自今新ニ市街ヲ開設セントスルトキハ其國郡地名ヲ指定シ明治十九年<sup>六月</sup>閣令第拾六號北海道土地拂下規則第二條及同年<sup>八月</sup>北海道廳甲第八號布達同規則施行手續第二條ノ範圍内ニ於テ貸下地ノ坪數及其成功期限ヲ定メ之ヲ告示スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ土地ノ貸下ヲ願出ルモノハ北海道土地拂下規則施行手續第一條書式第貳號起業方法書ニ據リ尙ホ左ノ各項

ヲ記載スヘシ

一 建物ノ軒檐ハ道路沿ノ下水ヲ隔ル何尺（檐溜ノ下水ノ中央ニ落ルヲ度トス）

一 建物ハ板（又ハ柱）ヲ以テ葺キ四壁ハ土（又ハ板）トス（瓦石ヲ用フルトキハ本文ニ瓦石云々ト記スヘシ）

一 道路沿ノ下水ハ（石又ハ板）ヲ以テ土留ヲ爲ス

一 宅地ノ周圍ハ塀牆（板又ハ柵何々）建設

第三條 土地貸下出願者夥多ナルトキハ抽籤ヲ用フルコトアルヘシ但其方法ハ臨時之ヲ告示スヘシ

第四條 前條抽籤ノ後當籤者本人若クハ代人所在詳ナラスシテ日數六十日ヲ過ルトキハ其當籤ハ無効タルヘシ

第五條 土地ノ貸下ヲ得タルモノ起業方法書ノ通成功セサルトキハ其土地ヲ返納セシム此場合ニ於テ施設ノ物件ハ日數三十日以内ニ之ヲ取除カシム若シ日限經過シ取除カサルトキハ直ニ處分ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 前各條ノ外ハ總テ明治十九年八月八日北海道廳甲第八號布達北海道土地拂下規則施行手續ニ據ル

訓令

(訓令第四拾壹號) 十月三日

郡區役所

警察署

監獄署

巡查看守ニシテ他ノ官吏へ轉任ノ場合ニ於テハ經濟ヲ同フスルモノト雖モ自今其際滿年賜金打切支給ス可シ

(訓令第四拾二號) 十月四日

郡區役所

戶長役場

明治十九年三月已第四號達及二十年四月訓令第拾三號ヲ廢ス

(訓令第四拾參號) 十月十二日

郡區役所

本年十月大藏省訓令第六拾壹號ニ據リ郡區役所印紙類會計官吏ハ郡區長之ヲ命シ異動ノ都度届出ツ可シ

(訓令第四拾四號) 十月十五日

札幌農學校

郡區役所

警察署

監獄署

北海道尋常師範學校

函館商業學校



札幌函館  
根室紗那 病院

官船若クハ借入傭入船舶ニ乗込出張スル戸長其他食卓料左ノ通之ヲ支給ス

- 一 戸長及廳立學校病院職員ハ本年四月閣令第拾四號判任官ノ額
- 一 華族及從六位勳六等以上ノ士民傭外國人ハ本年四月閣令第拾四號奏任官ノ額其他有位帶勳ノ士民ハ同判任官ノ額
- 一 巡查看守雇員官立學校生徒及一般士民
  - 一日金五十錢
- 一 押丁現業取扱人給仕小使戸長役場雇員及諸職工
  - 一日金三十錢

(訓令第四拾五號)

十月十六日

郡區役所

明治二十年十月北海道廳訓令第百拾六號郡區長分任條件報告例別冊ノ通改ム

但別冊ハ別ニ配付ス

(別冊)

郡區長分任條件報告例

凡例

第一 此報告方ハ明治二十年廳令第五拾壹號及訓令第參拾壹號ヲ以テ郡區長ヘ特ニ分任ノ條件中郡區長ノ處分シタル事項ニ就キ其緩急ヲ計リ報告ス可キ順序ヲ示スト雖モ其他自今特ニ報告ヲ要スルモノ及從前ノ報告期限ヲ改ムルモノハ亦之ヲ掲ク

第二 報告書差出期限從前定期アルモノト雖モ此例目ノ下欄ニ指定シタル期日マテニ各地ヲ發送スヘシ

第三 特ニ分任ノ條件中此例目ニ掲載セサルモノハ自今報告ニ及ハス但土地及會計租稅ニ關スル條件ニシテ別ニ報告ノ規定アルモノハ其規定ニ依リ報告スヘシ

第四 報告ヲ分テ即報月報(分全月)半年報(一月ヨリ六月マテ又ハ七月ヨリ十二月マテノ分)年報(一年分)ノ四種トス

第五 此報告ハ一件ヲ一通ト爲シ差出可シ

報告例目

即報

適用

發送期日

第一部下告示及命令諸件

告示及命令ニ全文ヲ報告ス可シ

第二 戸長ニ分任ノ條件

分任ノ廉々及ヒ理由ヲ報告ス可シ

第三 郡區役所戸長役場雇員以下懲戒處分ノ件

廿年五月訓令第參拾壹號第三項

第四 氏子替届ノ件

十五年五月內務省乙第廿八號達

第五 度量衡賣捌願許可ノ件

廿年五月廳令第五拾壹號第廿四項

第六 船舶積量測定ノ件

全 上 第四十項

第七 郡區役所修繕ノ件

廳舎模様替ノ都度繪圖面取調報告ス可シ

第八 道路掃除方法ノ件

廿年五月廳令第五拾壹號第廿三項

月報

第一 町村立小學校授業生進退ノ件

廿年五月訓令第參拾壹號第六項 翌月五日

第二 電線道路田畑水利ニ障礙アル官有樹木(森林内ヲ除ク)伐採ノ件

二十年五月廳令第五拾壹號第三十八項 全 上

第三 往還並木ノ枯損木倒木處分ノ件

全 上 第五十一項 全 上

第四 授業生學力檢定試驗及免許狀授與書換ノ件

姓名及年月日ヲ報告ス可シ 全 上

半年報

- 第一 郡區書記以下事務分掌 六月卅日現在十二月卅一日現在 上 十日
- 第二 郡區役所戶長役場雇員氏名並其俸給 全 上 全 上
- 第三 船燈信號器監査ノ件 廿年五月廳令第五拾壹號第三項 全 上
- 第四 地方費ヲ要セサル道路堤防橋梁修繕及下水新設願許可ノ件 全 上 第四十八項 全 上
- 第五 橋鐵ヲ要セサル架橋願許可ノ件 全 上 第四十九項 全 上
- 第六 道路橋梁堤防及官有建物ノ原形ヲ變更セサル定額内修繕ノ件 全 上 第五十項 全 上

年報

- 第一 郡區ノ事務並ニ管内ノ概況 翌年一月廿日
- 第二 郡區役所戶長役場雇員以下一周年來ニ於テ賞與手當金給與ノ金員及其氏名 廿年五月訓令第參拾壹號第四項 全 上
- 第三 町村立小學校職員一周年來ニ於テ賞與金給與ノ件 全 上 第十項 全 上
- 第四 窮民賑恤ノ件 表式內務報告例年報第三十八項ニ依リ各郡區別ニ調製ス可シ 全 上
- 第五 棄兒並養育料給與ノ件 表式內務報告例年報第三十九項ニ依リ各郡區別ニ調製ス可シ 全 上
- 第六 戶口表 表式別表第一號雛形ニ依ル可シ 翌年二月廿日
- 第七 人口出入表 表式別表第二號雛形ニ依ル可シ 全 上

- 第八 本籍人族別表 表式別表第三號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第九 本籍生年別人口表 表式別表第四號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十 本籍出產死亡婚姻表 表式別表第五號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十一 本籍出產死亡婚姻表付屬 表式別表第六號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十二 市街現住人出產死亡表 表式別表第七號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十三 就除籍送入籍及失踪表 表式別表第八號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十四 市街就除籍送入籍及失踪表 表式別表第九號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十五 本道ヨリ府縣へ移住戶口表 表式別表第十號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十六 本籍人口照合表 表式別表第十一號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十七 社寺境内官有地、枯木倒木處分ノ件 廿年五月廳令第五十一號第十項 全 上
- 第十八 祠官祠掌進退及年末現在 進退ハ其氏名及出願及許可ノ月日ヲ記載シ年未現在ハ表式別表第十二號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第十九 寺院住職進退及年末現在 進退ハ其氏名及出願ノ月日ヲ記載シ年未現在ハ表式別表第十三號雛形ニ依ル可シ 全 上
- 第二十 教務所設教所取設及其移轉廢合ノ件 出願及許可又ハ届出ノ月日及其名稱位置ヲ詳記ス可シ 全 上
- 第二十一 郡町村總代人及選被選人 表式別表第十四號雛形ニ依ル可シ 全 上

- 第三 區町村費收支豫算 二十年七月訓令第九十號 前年度十二月
- 第三 區町村費收支決算並不納公賣處分 全 翌年度十二月
- 第三 消役人氏名 十二月三十一日現在 翌年一月廿日
- 第三 賣藥請賣行商願許可ノ件 表式別表第五號雜形ニ依ル可シ 翌年三月廿日
- 第三 種痘明細表 表式內務報告例年報第六十二項ニ依リ各郡區別ニ調製ス可シ 翌年四月十日
- 第三 醫事娼妓微毒検査及中毒表 表式內務報告例年報第六十三項ニ依リ各郡區別ニ調製ス可シ 全
- 第三 死亡者年齢區別表 表式內務報告例年報第六十四項ニ依リ各郡區別ニ調製ス可シ 全
- 第三 度量衡検査ノ件 表式十四年九月農商務省乙第九號及十九年七月同訓令第十號ニ依ル可シ 全
- 第三 職遊獵及威銃願許可ノ件 廿年五月廳令第五十一號第五項 翌年四月廿日
- 第三 水車營業願許可ノ件 全 上 第二十六項 翌年一月廿日
- 第三 蒸氣器械ヲ用キ營業願許可ノ件 全 上 第二十七項 全
- 第三 海產干場ニ連續スル海濱河岸及湖沼ニ沿フ官有地使用願許可ノ件 表式別表第六號雜形ニ依ル可シ 全

表式第壹號

戶口表

(明治何年十二月三十一日現在)

郡區役所名

合	郡 何		郡 何		區 何		郡區町村名	本籍人	現住人	現住戸數				
	計	何	何	計	何	何								
		村	町		町	町								
							男	女	計	男	女	計	本籍	寄留

一現住人ノ欄ニハ本籍ヲ本トシテ外國行、他府縣及他郡區へ出寄留、陸海軍在營艦現役兵、在監囚人、失踪ノ員數ヲ除キ他府縣他郡區ヨリ入寄留ヲ加ヘタル數ヲ記入スヘシ

一現住戸數ノ欄ニハ戸主タルモノト戸主タラサルモノトヲ問ハス渾テ其地ニ居住シテ一世帯ヲナス竈數ヲ記入スヘシ但官社學校病院製造所等ノ構内ニ居住スルモ別ニ一竈ヲナス者ハ亦一戸トシテ之ヲ記入スヘシ

表式第貳號

人口出入表

(明治何年十二月三十一日現在)

郡區役所名

再掲市街	何々市街	合計	何郡	何區	出		入	
					外國行 出寄留	管外へ管内へ 出寄留 <small>現住兵在監囚人</small>	管外へ管内へ 入寄留	管内へ 入寄留
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女
					男	女	男	女

一外國行ノ欄ニハ外國ニ行キタルモノ又管外へ出寄留ノ欄ニハ他府縣ニ出テ住スル者又管内へ出寄留ノ欄ニハ道廳管内ノ他郡區ニ出テ住スル者ヲ記入スヘシ

一陸海軍在營艦ノ現役兵及監獄ニ在ル囚人ハ郡區ノ内外ニ在ルヲ問

ハス各其欄ニ記入スヘシ但歸休兵ハ算入スヘカラス

一 失踪ノ欄ニハ本年十二月三十一日調ノ戸籍ニ現ニ失踪ノ登記アル者ノ員數ヲ記入スヘシ

一 管外ヨリ入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ本郡區ニ來テ住スル者又管内ヨリ入寄留ノ欄ニハ道廳管内ノ他郡區ヨリ來テ住スル者ヲ記入スヘシ

一 再掲市街ノ欄ニハ現住人五千以上ノ地ヲ掲ケ他府縣他郡區ノ出入寄留ヲ記載スルハ勿論同郡内ト雖モ其市街ノ域外ニ出テ住スル者ハ管内出寄留トナシ市街ノ域外ヨリ來テ住スル者ハ管内入寄留トナシテ記入ス可シ但區ノ名稱アル市街ハ再掲スルニ及バス

表式第三號

本籍人族別表

(明治何年十二月三十一日現仕)

郡區役所名

郡區名	華族		士族		平民		合計
	戸主	家族	戸主	家族	戸主	家族	
何區	男	女	男	女	男	女	
何郡	男	女	男	女	男	女	
合計							

一 棄兒ハ人ノ養子女トナラサル者ノミヲ掲クヘシ

表式第四號

本籍生年別人口表

(明治何年十二月三十一日現在)

郡區役所名

生 區 年 別	何區		何郡		何郡		何郡		何郡		何郡		合計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
明治二十二年生														
全二十一年生														
全二十年生														
全十九年生														
全十八年生														
全十七年生														
生年不詳														
合計														

一本表ハ北海道廳本籍人ノ生年ヲ調査スルモノニシテ明治二十二年ヲ首トシ以上年次ヲ逐ヒ明治慶應元治文久萬延安政嘉永弘化天保文政文化享和寛政天明安永ニ溯リ年號何年生ト列記シ其生レタル年ニ從ヒ記入スヘシ例ハ明治二十二年生レノ下欄ニハ同年一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出生シタル者ヲ記入スルカ如シ但戸籍編製以前逃亡失踪シ其生年詳ナラサル者アルトキハ生年不詳ノ項ニ記入スヘシ

表式第五號

本籍出產死亡婚姻表

(明治何年)

郡區役所名

郡類	公生		私生		合計		死亡		婚姻	
	男	女	男	女	男	女	男	女	結婚數	離婚數
何區										
何郡										
合計										

一本表ハ一ケ年ノ總數ヲ記入スルノ趣意ナリ  
 一生産者ノ數ヲ擧クルニハ例ハ明治二十二年ニ在テハ先ツ該年ノ登記目錄ニ就キ一月一日ヨリ十二月三十一日マテニ出產シタル數ヲ算出シ之ヲ第一數トシ次ニ明治二十三年ノ登記目錄ニ就キ廿二年

十二月下旬ヨ出產シテ其届出期限二十三年一月上旬ニ係リテ届出タル數ヲ算出シ之ヲ第二數トシ（此第二數ハ明治二十三年ノ出產表ニハ記入セサルモノトス）此第一第二ノ數ヲ合シテ記スヘシ  
 一死亡者ノ數ヲ擧クルハ生産者ノ數ヲ擧クル方法ト同シ  
 一出産届出以前ニ死亡シタル者ノ數ハ前項ノ方法ニ據リ生産死亡ノ兩項ニ各記入スルハ勿論トス  
 一結婚離婚ノ數ハ本年中結婚離婚ヲ届出タル件數則組數ヲ記シ且結婚ハ婦又ハ婿ヲ迎ヘタル方離婚ハ之ヲ出シタル方ニ於テ記入スヘシ  
 一年末配偶ノ欄ニハ本年十二月三十一日調ノ戸籍ニ現ニ登記シアル夫婦ノ組數ヲ記入スヘシ



表式第六號

本籍出産死亡婚姻表附屬

(明治何年)

郡區役所名

合 計	何 郡	何 區	郡 類																	
			名 別		生 産 届 洩 者						乘 兒		死亡届							
			男	女	前年以前	本年	前年以前	本年	前年以前	本年	前年以前	本年	前年以前	本年						
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						

- 一本表生産届洩者ハ例ハ明治二十二年ノ調査ニ在テハ該年ノ登記目録ニ就キ二十一年以前ニ出産シテ二十二年中ニ届出タル者ノ數ヲ二十一年生ヨリ十七年以前生マテノ五項ニ別テ記入スヘシ爾後此例ニ依リ毎年繰上クルモノトス
- 一棄兒ハ本年中ニ届出タル者ニ就キ本年中出生ト推測シタル者ハ本年生ノ項ニ前年出生ト推測シタル者ハ明治二十一年以前生ノ項ニ區別シテ記入スヘシ
- 一死亡届洩者ハ生産届洩者ヲ擧クル如ク五項ニ區別スルニ及ハス總テ一項ニ合記スヘシ
- 一本籍不詳者ハ本年中行旅死亡人取扱規則ニヨリ取扱ヒタル數ヲ記入スヘシ但調査ノ際揭示中ニ係ル者ハ之ヲ除キ本籍不詳ト決シタ

ルノ數ヲ記入スヘシ

- 一 死産ハ妊娠後四ヶ月以上ニシテ死胎分娩シタル者ヲ云フ其數ハ素ヨリ登記目錄ニ記載セサル者ナルヲ以テ人民各自ノ届書ニ據リ死産ノ月日ニ拘ハラヌ本年一月一日ヨリ十二月卅一日マテニ届出タル數ヲ記入スヘシ但死亡數ヘハ算入スヘカラス

表式第七號

市街現任人出産死亡表

(明治何年)

郡區役所名

市街名	生		産		死		計
	公生	私生	合計	樂兒	死産	死	
男				男	女	男	
	女	男					
男	女	男	女	男	女	男	女
男	女	男	女	男	女	男	女
合計							
何々市街							

本籍詳本籍詳ナタル者ヲサレ合

- 一 本表市街ハ區ノ名稱アルモノ及人口一萬以上ノ地ヲ云フ
- 一 本表ハ本籍人ノ其市街ヲ出テ住シテ出生死亡シタル者ヲ除キ他ヨリ其市街ニ來リ住シテ出生死亡シタル者ヲ加ヘテ調査スヘシ
- 一 生産死産死亡ノ記入方ハ前表ノ説明ニ同シ但本年ニ係ル數ノミヲ記入シ前年以前ノ届洩ニ係ル者ハ記入ニ及ハス
- 一 棄兒ハ本年出産セント認ムル者ノ數ヲ掲ケ前年以前ニ出産セント認ムル者ノ數ハ記入スヘカラス

表式第八號

就除籍送入籍及失踪表

(本籍) (明治何年)

郡區役所名

郡區名別	無籍者外國ヨリ府縣ヨリ入籍		計		失踪者重籍者外國へ送籍		府縣へ送籍		合計		失踪
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
何區											
何郡											
合計											

一無籍者就籍ノ項ニハ明治五年戸籍編製ノ時ヨリ無籍ニシテ本年ニ至リ始テ籍ニ就キタル者ヲ記入スヘシ

一外國ヨリ入籍ノ項ニハ婚姻ニ依リ外國人ノ入籍シタル者ヲ記入スヘシ

一失踪者除籍ノ項ニハ本年中滿八十歳ニ至リ除籍シタル者及八十歳以上ニシテ失踪シ本年中滿三十六ヶ月ニ至リ除籍シタル者ヲ記入スヘシ

一重籍者除籍ノ項ニハ一人ニシテ兩所ニ本籍ヲ有スルニヨリ一方ヲ削除シタル者ヲ記入スヘシ

一外國へ送籍ノ項ニハ婚姻ニ依リ外國へ送籍シタル者ヲ記入スヘシ  
 一失踪ノ項ニハ本年一月一日ヨリ十二月三十一日迄ニ失踪逃亡ヲ届出タル者ヲ記入スヘシ但復歸又ハ所在分明ノ届出アリタル者ハ此限ニアラス

表式第九號

市街就除籍送入籍及失踪表

(明治何年)

郡役所名

市街名	別		生	産	就	籍	増		計	死	亡	除	籍	減		計	失	踪
	男	女					他府縣 他郡區 入籍	他府縣 他郡區 入籍						他府縣 他郡區 入籍	他府縣 他郡區 入籍			
何市街	男	女																
、																		
、																		

一市街區ノ名稱アルモノヲ除キ現住人五千以上ノ地ヲ掲クヘシ

一就籍ノ項ニハ生産届洩者、棄兒、外國ヨリ入籍者、無籍者就籍ノ總數ヲ掲ケ除籍ノ項ニハ死亡届洩者、失踪者除籍、重籍者除籍、外國

ニ送籍者ノ總數ヲ掲ヘシ

表式第九號

北海道ヨリ府縣へ移住戸口表

(明治何年)

郡區役所名

府	縣	名	戸	數	人		計
					男	女	



日現在  
前年ニ比シ増減

女	男	女											
---	---	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

一本表ハ戸籍諸表ニ付其違算誤謬ナキヲ照合スル爲メ設クルモノナ  
 一本年十二月卅一日現在ノ欄ニハ前年十二月卅一日現在ノ員數ニ本  
 年中ノ加籍ヲ加ヘ其除籍ヲ減シタルモノヲ記載スヘシ尤其員數ハ  
 戸口表ノ本籍人員ト符合スルヲ要ス

表式第拾貳號

祠官祠掌

(明治何年十二月卅一日現在)

郡區役所名

種	類	祠	官	祠	掌	計

府	縣	社
鄉	社	
村	社	
無	格	社

表式第拾參號

住 職

(明治何年十二月三十一日現在)

郡區役所名

種	類	天	台	眞	言	淨	十	臨	濟	曹	洞	黃	藥	眞	日	連	時	融	通	合	計	







空知 樺戸 釧路 監獄署

當廳物品出納順序左ノ通定ム

北海道廳物品出納順序

第一條 北海道廳所有ノ物品出納ノ順序ハ左ノ條項ニ據ルヘシ

第二條 此順序ニ於テ部局ト稱スルハ空知樺戸釧路ニ監獄署及札幌農學校ヲ云ヒ支部局ト稱スルハ長官函館出張所七重種畜場及林務課員派出所ヲ云フ

第三條 北海道廳本廳及部局ニ物品會計官吏ヲ置キ支部局ニ物品出納主任ヲ置キ北海道廳本廳各部及部局所屬ノ小支部局ニ物品監守者ヲ置ク

第四條 物品出納ニ關スル命令ハ北海道廳本廳ハ第三部長ニ部局ハ

該部局長ニ支部局ハ該支部局首席ノ官吏ニ委任ス

第五條 物品會計官吏ハ代理官ヲ置クノ必要アルトキハ北海道廳長官ニ具狀スヘシ

第六條 物品出納命令官若クハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ命令アルニ非サレハ物品出納スルヲ得ス

第七條 物品購入生産賣却毀損亡失補繕貸借其他物品一切ノ受拂ニ關スル事務ハ物品會計官吏若クハ其事務ヲ分擔スル物品出納主任之ヲ處理ス

第八條 本屬物品會計官吏ハ物品出納主任物品監守者及臨時買賣貸借出納ヲ取扱フ官吏ノ職務ヲ指揮監督シ其物品出納精算ニ關スル事務ヲ収束スヘシ

物品出納主任ハ其成算ヲ本屬物品會計官吏ニ証明スヘキモノトス  
第九條 物品會計官吏若クハ物品出納主任ヲ置カサル北海道廳本廳各部又ハ部局所屬ノ支部局ハ物品ノ多寡ニ隨ヒ部長若クハ支部局ノ長ニ於テ一名乃至五名ノ物品監守者ヲ撰定シ當該部長又ハ支部局ノ長ヨリ其官氏名ヲ北海道廳長官ヘ開申スヘシ其監守者變更スルトキモ亦同シ

第十條 北海道廳本廳各部若クハ各部局ノ各課共用ノ物品ハ當該監守者ノ監守トシ職員專用ノ物品ハ各自ノ監守トス  
監守中ノ物品ハ自他交換使用シ或ハ擅ニ貸借スルヲ得ス

第十一條 物品出納主任又ハ監守者ニ於テ合規ノ順序保管ヲ怠ルトキハ直接之ヲ怠ルモノヲ其責ニ任シ仍テ損害ヲ生スルモノアルト

キハ北海道廳長官ノ判決ニ據テ賠償セシム

第十二條 物品ヲ毀損亡失シタルモノアルトキハ物品出納主任若クハ監守者ハ本屬物品會計官吏ニ其顛末ヲ報告スヘシ

物品會計官吏ハ其事由ヲ審明シ第三部長合議ノ上北海道廳長官ノ判決ヲ受ケ修繕又ハ辨償セシメ若クハ受拂簿ノ支拂ニ立テシムヘシ  
第十三條 物品ヲ類別シテニトス

一 特用品

一 常用品

特用品トハ特ニ臨時所要ノ物品ヲ云ヒ常用品トハ平常所用ノ物品ヲ云フ

毎種ノ區別ハ北海道廳長官之ヲ定ム

第十四條 特用品ニシテ買置物品アラサルモノハ其時々購入シ常用品ハ一ヶ年一回又ハ數回購入スヘキモノトス

第十五條 特用品ノ購入又ハ買置品ノ交附若クハ貸借ハ部長ノ請求書ニヨリ第三部長合議ノ上北海道廳長官ノ裁定ヲ受クヘシ

物品會計官吏ニ於テ必要ト認メザルモノ及數量過度ナリト認ムルモノハ其請求ニ應セス更ニ北海道廳長官ノ判決ヲ請フコトアルヘシ

第十六條 常用品ノ購入ハ物品會計官吏預定ノ員數ニ據リ第三部長合議ノ上北海道廳長官ノ裁定ヲ受クヘシ

第十七條 物品ノ交附及補繕ハ左ノ証憑ニ據ルヘキモノトス

特用品ノ交附ハ所用ノ事由ヲ記載シ當該部長ノ檢印セル所用者ノ領收証書

常用品ノ交附ハ所用ノ事由ヲ記載シ當該課長又ハ首席官吏ノ檢印セル所用者ノ領收証書  
補繕品ハ當該課長ノ檢印セル保管者又ハ所用者ノ事由書及領收証書

第十八條 部局若クハ支部局ニ於テ物品購入交附及補繕スル手續ハ渾テ第十五條第十六條及第十七條ノ例ニ準據スヘシ

第十九條 生産物品ハ物品出納主任若クハ監守者ニ於テ品名數量事由ヲ詳記シタル調書ヲ製シ出納命令ノ委任ヲ受ケタル官吏ヲ經本屬物品會計官吏又ハ物品出納主任ヘ報告スヘシ  
該物品ハ官有ヲ離ル、迄又ハ支消スル迄ハ物品出納主任又ハ監守者ノ監守ニ付スヘキモノトス

第二十條 物品會計官吏ハ前條報告ニ因リ記帳回議書ヲ製シ第三部長合議ノ上北海道廳長官ノ決判ヲ受ケ關係ノ帳簿ニ登記スヘシ其支拂ノ手續モ亦同シ

部局又ハ支部局ニ於テハ該報告書ニ依リ調書ヲ製シ出納命令ノ委任ヲ受タル官吏ノ決判ヲ得テ登記スベキモノトス

第二十一條 物品購入及支拂ノ委託ヲ受ケタル官衙ハ第三十三條ノ例ニ準シ委託ノ官衙ニ証明スヘシ但特ニ購入若クハ交付ノミ委託ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

第二十二條 不用ニ属シタル物品ハ直ニ物品會計官吏若クハ物品出納主任ニ返納書ヲ添ヘテ返付スヘシ相當ノ事由ナク監守者又ハ職員漫ニ監守スルヲ得ス

第二十三條 前條ノ返戻物品ハ所用ニ堪ユヘキモノト否ラサルトヲ區分シ所用ニ堪サルモノハ毎三ヶ月ニ取纏メ公賣ニ付シ使用ノ見込アルモノ若クハ所用ニ堪ユヘキモノハ補繕ヲ加ヘ戻品ニ繰入ルヘシ

第二十四條 北海道廳本廳物品會計官吏ニ於テ物品受入支拂ヲ爲シタルトキハ其証憑ヲ添付シ記帳回議書ヲ調製シ第三部長合議ノ上北海道廳長官ノ決判ヲ受ケ關係ノ帳簿ニ記入スヘシ  
部局若クハ支部局ニ於テ調製スル回議書ハ出納命令ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ決判ヲ得テ記帳スヘキモノトス

第二十五條 公賣スヘキ物品ハ北海道廳本廳物品會計官吏ニ於テ品目數量調書ヲ製シ第三部長合議ノ上北海道廳長官ノ裁定ヲ受クヘ

部局若クハ支部局ニ於テ調製スル調書ハ出納命令ノ委任ヲ受ケタル官吏ノ決判ヲ得テ處分スヘキモノトス

第二十六條 購入物品代價ハ現品納濟ノ上之ヲ支拂ヒ賣却物品ハ代價領收ノ上下渡スヘキモノトス

第二十七條 物品ヲ注文スルトキハ物品會計官吏若クハ其事務ヲ分擔シタル物品出納主任ハ其品目數量概算代價ヲ審査シ第十五條若クハ第十六條ノ手續ヲ了リタル後契約ノ事實ヲ記帳シ物品領收ノ上該契約ヲ取消スヘシ

第二十八條 官吏派出先ニ於テ購入支拂ヲナスヘキ物品ハ其品目數量概算代價所用事由ヲ記載シタル預定通牒ヲ差出サシメ物品會計

官吏又ハ其事務ヲ分擔シタル物品出納主任ハ前條ノ手續ヲ爲スヘシ  
購入預定額ハ事實審査ノ上第十五條又ハ第十六條ノ手續ヲナスヘキモノトス

第二十九條 派出先ニ於テ物品購入支拂ヲ執行シタル官吏ハ其品目數量代價ヲ記載シタル受拂表ヲ製シ証憑ヲ添ヘ本屬物品會計官吏又ハ其事務ヲ分擔シタル物品出納主任ヘ証明スヘシ物品會計官吏若クハ物品出納主任ハ之ヲ審査シ契約ノ事實ヲ取消シ及第二十四條ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十條 物品會計官吏又ハ其事務ヲ分擔シタル物品出納主任ハ第二十八條第二十九條ノ物品數量代價ヲ照合シ若シ預定ニ超過スル

モノアラハ更ニ第二十八條次項ノ手續ヲ履行セシムヘシ

第三十一條 支部局物品出納主任ハ物品受入支拂トモ毎三ヶ月ニ上計シ物品受拂表ヲ調製シ其証憑ヲ添ヘ甲期ノ分ハ乙期ノ初月十日以内ニ出納命令ノ委任ヲ受ケタル官吏ヲ經テ之ヲ北海道廳本廳物品會計官吏ニ証明スヘシ

北海道廳本廳物品會計官吏ハ物品受拂表及証憑ヲ審明シ第三部長ヲ經北海道廳長官ニ開申スヘシ

第三十二條 北海道廳本廳物品會計官吏ハ該廳ニ於ル毎三ヶ月間ノ物品受拂表ヲ調製シ甲期ノ分ハ乙期ノ初月十日迄ニ第三部長ヲ經テ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第三部長ハ該受拂表ヲ上計シ物品出納報告書ヲ調製シ年度後五ヶ

月以内ニ之ヲ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第三十三條 部局物品會計官吏ハ該部局毎三ヶ月間ノ物品受拂表ヲ調製シ甲期ノ分ハ乙期ノ初月十日迄ニ該部局長ニ差出スヘシ  
部局長ハ該受拂表ヲ上計シ物品出納報告書ヲ調製シ第三十二條次項ノ手續ヲ爲スヘシ

第三十四條 北海道廳本廳物品會計官吏ハ該廳物品受拂高ト第三十條ニ掲ケタル受拂表ノ高トヲ併算シ當該年度物品出納計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添ヘ年度後三ヶ月以内ニ第三部長ヲ經テ北海道廳長官ニ差出スヘシ

第三十五條 部局ノ物品會計官吏ハ當該年度物品出納計算書ヲ調製シ証憑書類ヲ添ヘ年度後三ヶ月以内ニ該部局長ヲ經テ北海道廳長

官ニ差出スヘシ

第三十六條 北海道廳長官ハ第三十二條及第三十三條ノ報告書ニ據  
リ別紙書式ノ物品出納報告書ヲ調製シ物品會計規則第十四條ノ手  
續ヲ爲スベキモノトス

第三十七條 北海道廳長官ハ第三十四條及第三十五條ノ物品出納計  
算書及証憑ヲ下検査官ニ検査セシメタル後物品會計規則第十五條  
及第十七條ノ手續ヲ爲スベキモノトス

第三十八條 北海道廳長官ハ毎年一回又ハ數回下検査官吏ヲ管内各  
官衙ヘ派出スベシ其派出検査ノ方法ハ別ニ之ヲ定ム

第三十九條 遠隔ノ地ニアル支部局若クハ生産ニ係ル物品ニシテ本  
順序ニ據リ難キモノアルトキハ特別ノ順序ヲ設クルヲ得

第四十條 本規程ニ属スル記簿及細則ハ北海道廳長官之ヲ定ム

(訓令第四拾七號) 十月二十日

郡區役所

明治二十年<sup>月</sup>北海道廳訓令第拾九號國稅處分濟報告別紙雛形中乙號  
酒造稅樣式并ニ備考中酒造免許稅ノ部第五項ヲ削ル

(訓令第四拾八號) 十一月九日

郡區役所

明治十八年<sup>月</sup>函館縣丙第三十號達ヲ廢ス

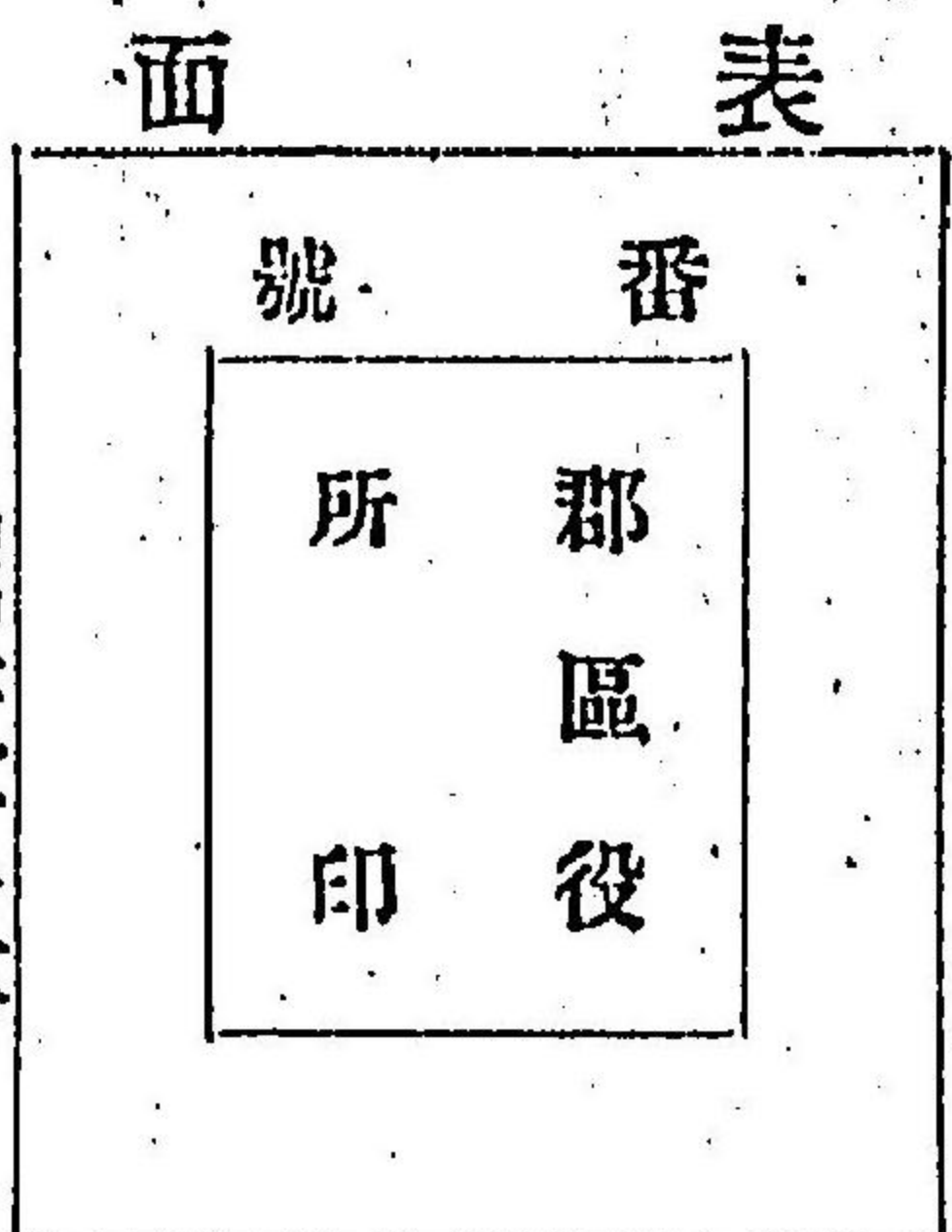
(訓令第四拾九號) 十一月十四日

郡區役所

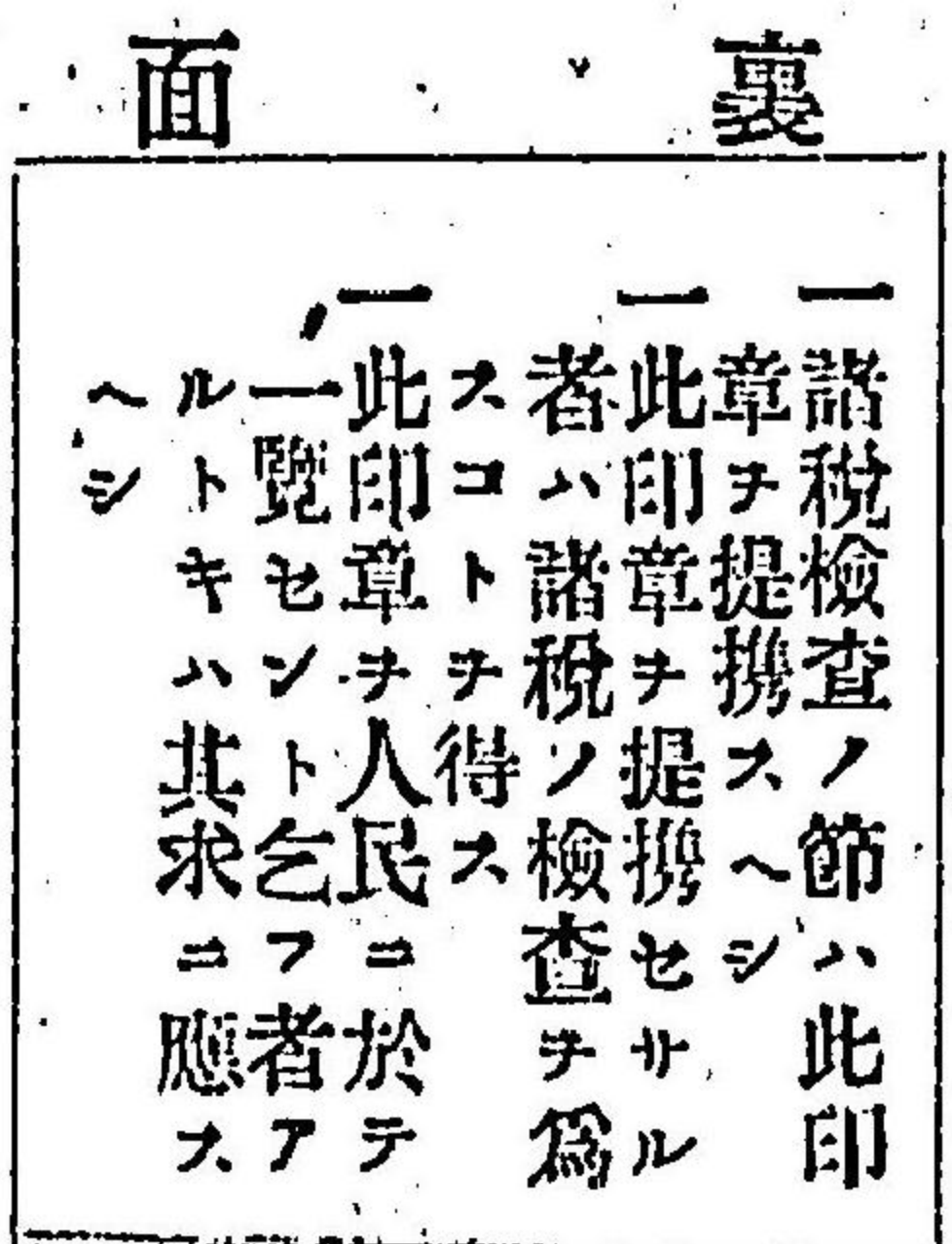
諸稅検査員臨檢ノ節ハ左ノ印章ヲ携帯セシムベシ

但明治十九年六月根室支廳乙第五拾四號達ヲ廢ス

(用紙鳥ノ子或ハ適宜厚紙)



曲尺二寸五分



(訓令第五拾號) 十一月十五日

郡區役所

明治二十一年十一月十一日當廳訓令第七拾參號租稅檢査例則中左ノ通改正ス  
第二十三項 但書「破解セシ」ノ下へ「モノヲ酒造場外ニ移ス」ノ十字

ヲ插入ス

第二十四項 「破解」ノ下「スルモノハ」トアルヲ「セシモノヲ酒造場外ニ移ストキハ」ト改ム

第八十二項 「酒造場毎ニ」ノ下「甲乙二帳ヲ」ノ五字及但書ヲ削リ「製シ置キ」ノ下へ「檢査員携帶シテ」ノ七字ヲ插入ス

第八十三項 「調製シ」ノ下「甲乙」ノ二字ヲ削ル  
第八十七項 「調製シ」ノ下「乙號造石檢査簿ニ添付」トアルヲ「營業人へ下付」ト改ム

一第貳號書式中「第貳號」ノ左傍ニアル「甲號」ノ二字并押切印及凡例ノ五項六項七項ヲ削ル

(訓令第五拾壹號) 十一月十五日



種痘費ハ土地ノ狀況ニ依リ其町村費ヲ以テ支辨スルヲ得可シ  
戸長役場

(訓令第五拾二號) 十一月二十九日

郡區役所

明治二十二年十月 北海道廳訓令第四拾五號郡區長分任條件報告例表式  
第貳號別紙ノ通り定ム  
表式第貳號

人口出入表

(明治何年十二月三十一日現在)

郡區役所名

郡區名	出						入						
	外國行	他府縣	他郡區	留寄	治人及懲失踪計	他府縣	他郡區	留寄	計				
男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	男女	

再掲市街	何々市街	合計	、 、	、 、	何	何
					郡	區

一 外國行ノ欄ニハ外國ニ行キタルモノ又他府縣出寄留ノ欄ニハ他府縣ニ出テ住スル者又他郡區出寄留ノ欄ニハ道廳管内ノ他郡區ニ出テ住スル者ヲ記入スヘシ

一 陸海軍在營艦者ノ欄ニハ歸休兵ヲ除キ現ニ陸海軍ノ屯營艦船ニ在ル下士卒傭夫馬丁ヲ出寄留ト看做シテ記入スヘシ

一 囚人及懲治人ノ欄ニハ囚人ハ檢事ヨリ通知シタル犯人ニシテ未タ

刑期ヲ終ラサル者及懲治場ニ在ルモノヲ出寄留ト看做シテ記入スヘシ

一 失踪ノ欄ニハ本年十二月三十一日調ノ戸籍ニ現ニ失踪ノ登記アル者ノ員數ヲ記入スヘシ

一 他府縣入寄留ノ欄ニハ他府縣ヨリ本郡區ニ來テ住スル者又他郡區入寄留ノ欄ニハ道廳管内ノ他郡區ヨリ來テ住スル者ヲ記入スヘシ

一 再掲市街ノ欄ニハ現住人五千以上ノ地ヲ掲ケ他府縣他郡區ノ出入寄留ヲ記載スルハ勿論同郡内ト雖トモ其市街ノ域外ニ出テ住スルモノハ他郡區出寄留トナシ市街ノ域外ヨリ來テ住スル者ハ管内入寄留トナシテ記入スヘシ但區ノ名稱アル市街ハ再掲スルニ及ハス

(訓令第五拾參號)

十一月三十日

警察署

明治二十二年十一月 北海道廳令第六拾四號ニ依リ藥舖藥種商ヨリ陸海軍其他官設工場病院等へ格魯兒酸加溜謨(鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里)ノ賣納ニ係ル届書ハ其購求証アルモノニ限り買主ノ連署ナキモ妨ケナシ

(訓令第五拾四號)

十二月十二日

郡區役所

戶長役場

收稅委員

稅務監查規程左ノ通相定ム

但明治十九年四月當廳已第四拾壹號達同年四月根室支廳乙第貳拾四號

達ハ廢ス

稅務監查規程

第一條 郡區役所ノ稅務ハ隨時第三部租稅課員ヲ派遣シ之ヲ監查セシム

第二條 監查員ハ左ノ事項ヲ監查スルモノトス

- 一 租稅檢査ノ當否
- 一 租稅檢査區畫及檢査員配置方
- 一 印紙類ニ關スル取扱方
- 一 諸稅ニ關スル帳簿ノ整否
- 一 賦稅誤脫ノ有無
- 一 諸稅賦課徵收方ノ適否

一 諸稅不納處分ノ適否及不納ノ狀況

一 諸稅金取扱方

一 稅務ニ關スル諸申報ノ整否

第三條 監查員ハ前條ノ事項ニ付郡區長并ニ檢査員ニ對シ質議説明ヲ求メ又ハ意見ヲ述フルコトヲ得

第四條 監查員ハ實地檢査ノ立會ヲ爲シ又ハ自ラ臨時營業家ニ就キ檢査ノ實況ヲ視察スルコトヲ得

第五條 監查上時宜ニ依リ戸長役場并ニ收稅委員ニ就キ稅務ノ實況ヲ視察スルコトヲ得

第六條 監査ニ係ル實況及郡區長其他ニ協議ヲ遂ケタル事項ハ毎月末第三部長ヘ開申スルモノトス

(訓令第五拾五號) 十二月十七日

空知監獄署  
樺戸監獄署  
釧路監獄署

明治二十年<sup>六月</sup>當廳訓令第五拾參號但書及第六課ノ項目ヲ削除ス  
(訓令第五拾六號) 十二月廿四日

各部

當廳物品出納順序細則左ノ通定ム

但書式及帳簿式ハ別ニ頒布ス(書式帳簿式略ス)

物品出納順序細則

第一條 順序第十三條ニ掲クル特用品及常用品ト稱スルモノ左ノ如

一 特用品

技術工藝ニ屬スル參考品又ハ動物ノ類

一 常用品

前項ニ屬セサル備品消耗品

第二條 職員普通専用ノ物品ハ左ノ種類トス

一 卓子 簿記者ハ簿記臺 一脚

一 椅子 一脚

一 書物函又ハ文庫 一個

一 算盤 一面

部長及長官函館出張所理事官ハ前項ノ外左ノ物品ヲ使用スルコト